

小山遺跡

KOYAMA SITE

—介護福祉施設建設に伴う緊急発掘調査報告書—

2018. 3

瀧野常實

盛岡市教育委員会

例 言

- 1 本書は、岩手県盛岡市東中野町30-1に所在する小山遺跡第41次発掘調査報告書である。本調査は、土地所有者である瀧野常實氏と盛岡市教育委員会との間に締結された協定書に基づき、盛岡市教育委員会（担当 盛岡市遺跡の学び館）が実施した。野外調査は平成28年8月29日から12月1日、室内整理は平成29年3月31日まで行われ、原稿及び編集作業は平成29年12月25日まで行われた。調査面積は196㎡である。
- 2 本書の編集執筆は神原雄一郎、今松佑太が担当し、室野秀文、菊地幸裕、津嶋知弘、花井正香、佐々木亮二、鈴木俊輝、及川菜里が協力した。
- 3 遺構平面位置は、日本測地系 平面直角座標X系を座標変換した調査座標で表示した。調査において遺構位置及び遺物出土位置を示すグリッドは、 $X-33,800 \cdot Y+29,200$ の交点を基点とし、基点より50m単位の大グリッドを $A \cdot B \cdot C \cdots X \cdot Y$ と設定し、北から南へ1・2・3…24・25と付し、これらのアルファベット（大文字）とアラビア数字の組み合わせを大グリッドと呼称した。さらに大グリッドを2m単位に分割し、再びアルファベットとアラビア数字の組み合わせを用いた。
(例) $X-33,800 \cdot Y+29,200 \rightarrow A1-A1$
- 4 高さは標高値をそのまま使用している。
- 5 土層図は堆積のしかたを重視し、線の太さを使い分けた。土層注記は層理ごとに本文でふれ、個々の層位については割愛した。層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』（1994小山正忠・竹原秀雄）を参考にした。
- 6 遺構記号は次のとおりとした。

遺 構	記 号	遺 構	記 号	遺 構	記 号
塹穴建物跡	RA	土 坑	RD	溝	RG
建 物 跡	RB	塹 穴	RE	配石・集石	RH

- 7 使用した地図は国土交通省国土地理院発行の5万分の1「盛岡」の地形図である。
- 8 図面整理は伊藤敦子、遺物整理は今松佑太、細田幸美・佐野光代・川京子、出土遺物の実測・トレースは神原雄一郎が中心に行い、神原が総括した。
- 9 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管している。
- 10 本調査の一部については速報展等で発表しているが、内容等については本書が優先する。

11 調査体制

平成28年度調査体制（野外・室内整理）

教育長	千葉仁一
教育部長	豊岡勝敏
教育次長	中野玲子
歴史文化課 遺跡の学び館 館長	杉本 浩
館長補佐	北田牧子
文化財副主幹	菊地幸裕
文化財主査	室野秀文, 津嶋知弘, 神原雄一郎（調査担当）, 花井正香
文化財主任	佐々木亮二
主事	佐藤美沙
文化財主事	鈴木俊輝
文化財調査員	今松佑太（調査担当）, 及川菜里
学芸調査員	樋下理沙, 日野杉潤子, 坂本志野

平成29年度調査体制（室内整理・報告書刊行）

教育長	千葉仁一
教育部長	豊岡勝敏
教育次長	大倉慎澄
歴史文化課 遺跡の学び館 館長	杉本 浩
館長補佐	多田秀明
文化財副主幹	室野秀文, 菊地幸裕
文化財主査	津嶋知弘, 神原雄一郎（整理事業担当）, 花井正香, 佐々木亮二
主任	川村 忠
文化財主事	鈴木俊輝
文化財調査員	今松佑太（整理事業担当）, 及川菜里
学芸調査員	樋下理沙, 日野杉潤子, 坂本志野

〔発掘調査・室内整理〕 伊藤敬子, 及川菜子, 小松愛子, 佐野光代, 谷藤貴子, 細田幸美, 佐々木富士子, 千葉貴子, 西田千佳

〔地権者・調査協力〕 瀧野常實

〔御指導・御助言〕 井上雅孝（滝沢市教育委員会）, 岩田貴之（北上市教育委員会）, 市川健夫・小保内裕之（八戸市教育委員会）, 菅野智則（東北大学）, 日下和寿（白石市教育委員会）, 柴田知二（二戸市教育委員会）, 菅原哲文（山形県埋蔵文化財センター）, 鈴木めぐみ（大船渡市教育委員会）, 高木晃（隼岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）, 武田良夫（日本考古学協会会員）, 高瀬克則（北海道大学）, 秦光次郎（青森県埋蔵文化財調査センター）, 星雅之（隼岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）, 八木勝枝（隼岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）

目 次

例 言	
目 次	
表 目 次	
挿図目次	
写真図版目次	

I 調査経過	1
II 調査内容	5
III 総括	37

表 目 次

第1表 小山遺跡発掘調査次数一覧	1
------------------	---

挿 図 目 次

第1図 小山遺跡の位置	2
第2図 小山遺跡全体図	6・7
第3図 地形分類と周辺の遺跡	9
第4図 小山遺跡第41次調査全体図	11
第5図 RA002竪穴建物跡（I～III期）	12
第6図 RA002竪穴建物跡（IV期）	13
第7図 RA002竪穴建物跡（V期）	14
第8図 RA002竪穴建物跡（IV・V期）周溝・ピット断面図	15
第9図 RA002竪穴建物跡IV期出土遺物（1）	17
第10図 RA002竪穴建物跡IV・V期出土遺物（2）	19
第11図 RA002竪穴建物跡V期出土遺物（3）	20
第12図 RA002竪穴建物跡V期出土遺物（4）	21
第13図 RA002竪穴建物跡V期出土遺物（5）	23
第14図 RA002竪穴建物跡IV・V期出土遺物（6）	25
第15図 RA002竪穴建物跡V期出土遺物（7）	26
第16図 RA002竪穴建物跡IV・V期出土遺物（8）	28

第17図	RA002竪穴建物跡Ⅱ・Ⅳ期出土遺物(9)	30
第18図	RA002竪穴建物跡Ⅳ期出土遺物(10)	31
第19～26図	RA002竪穴建物跡Ⅴ期出土遺物(11)～(18)	32
第27図	RA003竪穴建物跡(Ⅰ・Ⅱ期)	45
第28図	RA003竪穴建物跡Ⅰ・Ⅱ期出土遺物	46
第29～50図	遺物包含層出土遺物(1)～(22)	47

写真図版目次

第1図版	小山遺跡遠景, 調査前全景
第2図版	第41次調査区全景
第3図版	調査区基本土層堆積状況, 調査区南東部土層堆積状況
第4図版	RA002・003竪穴建物跡全景, RA002竪穴建物跡全景
第5図版	RA002竪穴建物跡Ⅰ・Ⅱ期全景, RA002竪穴建物跡Ⅲ～Ⅴ期全景
第6図版	RA002竪穴建物跡Ⅰ～Ⅲ期検出状況, RA002竪穴建物跡Ⅳ期検出状況
第7図版	RA002竪穴建物跡Ⅳ期全景, RA002竪穴建物跡Ⅳ期埋土堆積状況
第8図版	RA002竪穴建物跡Ⅴ期全景, RA002竪穴建物跡Ⅴ期埋土堆積状況
第9図版	RA002竪穴建物跡Ⅴ期地床炉検出状況, RA002竪穴建物跡地床炉半截状況
第10～12図版	RA002竪穴建物跡Ⅴ期遺物出土状況(1)～(6)
第13図版	RA003竪穴建物跡Ⅰ・Ⅱ期全景, RA003竪穴建物跡Ⅰ期検出状況
第14図版	RA003竪穴建物跡Ⅰ期埋土堆積状況, RA003竪穴建物跡Ⅱ期検出状況
第15図版	RA003竪穴建物跡Ⅱ期埋土堆積状況, RA003竪穴建物跡Ⅱ期周溝埋土堆積状況
第16図版	遺物包含層全景, 遺物包含層遺物出土状況(1)
第17・18図版	遺物包含層遺物出土状況(2)～(5)
第19図版	遺物包含層遺物出土状況(6), 遺構検出作業風景
第20図版	調査風景, 調査終了後風景
第21・22図版	RA002竪穴建物跡Ⅳ期出土遺物(1)～(4)
第23～31図版	RA002竪穴建物跡Ⅴ期出土遺物(1)～(18)
第32図版	RA002竪穴建物跡Ⅴ期出土遺物(19), RA003竪穴建物跡出土遺物(1)
第33図版	RA003竪穴建物跡出土遺物(2), 遺物包含層出土遺物(1)・(2)
第34～48図版	遺物包含層出土遺物(3)～(35)

(遺物の表現について)

(1) 土器……土器の区分は、縄文土器・土師器・あかやき土器・須恵器に大別した。

- a 縄文土器の実測図・拓本の縮小率は1/3とした。
- b 挿図の土器の配列は出土層位・器形・文様モチーフ及び施工技法でまとめた。
- c 縄文土器で綾線・沈線は実線・破線で表し、陰影は表現していない。

(2) 石器

- a 剥片石器の縮小率は2/3、礫石器は1/2とした。
- b 石器の展開順序は、基本的に左側に表面(背面)、中央に右側面、右側に裏面(腹面・主要剥離面)を配列し、必要に応じて側縁・縦断面・横断面を付け加えた。
- c 挿図の配列は出土層位順に配列し、さらに器種ごとにまとめ、配列した。
- d 剥片石器の摩擦痕は網目(スクリーントーン)で示し、礫石器の自然面はドットで示した。

(3) 土製品・石製品

- a いずれも縮小率を2/3とした。

(4) 挿図中の記号番号は遺物の出土地点及び出土層位を表している。

(例) RA701 B層 → RA701 竪穴建物跡埋土B層より出土

(例) G6-A20 III層

↓ ↓ ↓

※1 ※2 ※3

※1 大グリッド……遺跡の全体を50mメッシュで区切り設定した。北西隅を起点に西から東にA・B・C……のアルファベット、北から南には1・2・3……のアラビア数字を付し、A6, C12など、両方の組み合わせでグリッド名を表した。

※2 小グリッド……大グリッドの中をさらに2mメッシュで区切り、北西隅を起点として西から東にA～Yのアルファベット、北から南に1～25のアラビア数字を付し、グリッド名は両方の組合せで表した。

※3 遺物の出土層位を示す。

11. 遺構の表現について

各遺構の平面図で、複数の遺構を同一図面に表示する場合、説明する遺構は実線で表し、重複遺構は一点鎖線で表し、掘込面に層位差のある重複遺構は二点鎖線で表した。

12. 遺跡範囲については、過去の調査成果と遺跡の地形、遺物の散布状況をもとにして、推定の範囲を表している。

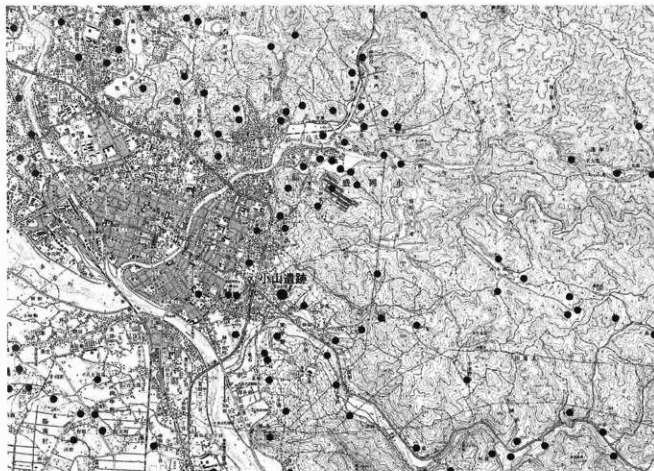
I 調査経過

1. 調査経過

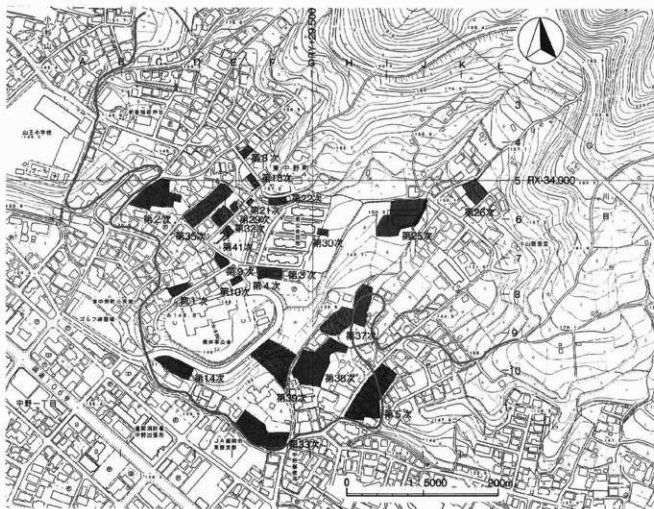
遺跡の位置 小山遺跡は盛岡市東部の小杉山、東中野町、東山1・2丁目地内に所在し、遺跡全体の現況は住宅地及び果樹園で、今回の第41次調査区は東中野町30-1に所在する畑地で行われた。調査面積は196㎡である。

過去の調査 当該遺跡における考古学的調査研究の歴史は古く、特に遺跡群の中核をなす小山遺跡は、大正～昭和にかけて活躍した岩手県の考古学調査および文化財行政の先駆者であった小田島祿郎氏のコレクションの中にも実見することができる。戦後昭和30年代になると、草間俊一氏は盛岡市史で吉田義昭・奥健夫・古澤典夫氏らによる採集資料から、縄文時代前期・中期の土器編年を小山第一類から第七類までを細分化した試案を提示している。しかし当該遺跡群における組織的な発掘調査は昭和40年代後半まで実施されることはなく、さらに小山遺跡の中心部であった舌状丘陵地では県知事公館・合同公舎が未調査に近いまま造成が着手され、遺跡の半分以上は壊滅状態にある。それを契機に周辺地域の果樹園・畑地等も急速に宅地化へ変貌し始め、当市では早急な対応を必要とし、分布調査による範囲確認作業を実施、昭和51年度からは個々の住宅建設等の開発行為に係る事前試掘調査および緊急発掘調査を実施している（第1表）。

これまでに、東に接する砂留遺跡の調査と合わせて41次にわたる緊急発掘調査が行われている。その内、本格的な発掘調査が行われたのは第8・9・10・14・21・35・41次の調査で、主に丘陵北西部に広がる住宅地での調査が多い。遺構が検出されたのは第14・21・35・41次調査で、第21・35次調査で縄文時代の竪穴建物跡が各1棟調査された。一方、試掘調査のみであるが丘陵頂部の第3次、丘陵東部で行われた第30次調査では、縄文時代中期後葉の竪穴建物跡が多数重複した状態で確認されている。丘陵北西斜面で行われた第21・35・41次調査での希薄な遺構分布から見ると、小山遺跡の主体となる地区は丘陵頂部から南～南東斜面であることが考えられる。



第1図 小山遺跡の位置 (1:50,000)



第2圖 小山遺跡全体図 (1 : 5,000)

調査次数	期間	㎡	遺構	調査次数	期間	㎡	遺構
試掘 001	1982.8.10	20	遺構・遺物なし	試掘 025	1997.2.25	190	遺構・遺物なし
試掘 002	1982.10.25～10.29	364	遺構・遺物なし	試掘 026	1998.9.24	116	遺構・遺物なし
試掘 003	1986.12.9	13	遺構・遺物なし	試掘 029	2000.10.26	64	遺構・遺物なし
試掘 004	1987.6.9	5	遺構・遺物なし	試掘 030	2002.12.12	52	縄文時代竪穴建物跡・遺物包含層 (試掘)
試掘 005	1987.6.8	250	遺構・遺物なし	試掘 031	2006.9.13～14	332	縄文時代竪穴建物跡3棟・土坑3基・遺物包含層 (試掘)
008	1988.8.1～8. 4	46	縄文時代遺物包含層	試掘 032	2007.7.4	71	遺構・遺物なし
009	1988.8.8～8.23	100	縄文時代遺物包含層	試掘 033	2007.7.5～7.6	461	縄文時代竪穴建物跡10棟以上・遺物包含層 (試掘)
010	1988.8.29～9.2	34	縄文時代遺物包含層	034・035	2010.7.26～8.23	200	縄文時代竪穴建物跡1棟・遺物包含層
014	1991.7.29～9.6	414	縄文時代土坑1基、中世銅1名	試掘 036	2013.6.28	27	遺構・遺物なし
試掘 016	1994.5.9	219	遺構・遺物なし	試掘 037	2015.5.19	62	縄文時代土坑3基 (試掘)
試掘 018	1996.7.31～8.9	97	縄文時代土坑1基・遺物包含層	試掘 038	2015.5.19	27	縄文土器小片
試掘 020	1997.4.21	1000	縄文時代遺物包含層	試掘 039	2015.5.20	29	縄文時代竪穴建物跡1棟・土坑1・遺物包含層 (試掘)
021	1997.6.9～6.30	87	縄文時代竪穴建物跡1棟・土坑2基・遺物包含層	試掘 040	2015.11.25～26	140	縄文時代竪穴建物跡29棟・遺物包含層
試掘 022	1997.6.10～11	52	縄文時代遺物包含層	41	2016.8.29～12.1	196	縄文時代竪穴建物跡7棟・遺物包含層

第1表 小山遺跡発掘調査次数一覧

2. 盛岡市内の地形・地質

概観 盛岡市は東に北上山地、西に奥羽山脈を擁し、北西には岩手山(2,038m)を望む。中央の北上平野には東北一の大河である北上川が流れ、東に北上山地、西に奥羽山脈が連なる。この東西の山脈は、構成する地質やその形成年代が異なるため、地形の様相は大きく異なる。また岩手山を含む八幡平火山地域の火山活動も盛岡の地質・地形に大きく影響を及ぼしている。

盛岡市周辺は地質構造上、北上帯の主要な境界である早池峰構造帯の西縁部が通り、北部北上帯と南部北上帯の双方を含む地域となっており、北部北上帯に属する山地では中起伏山地の外山山地、低起伏山地の玉山山地が位置し、南部北上帯に属する山地では、中起伏山地と小起伏山地の双方で構成されている手代森山地が位置する。その両者にはさまれた早池峰構造帯に属する山地は先第三系からなる北上山地の西縁部にあたり、北上川の近くにまで迫り、高森山(626m)を中心とする高森山山地と、朝島山(607m)を中心とする朝島山山地の中起伏山地、さらにその西につづく大日向山山地、岩山(341m)や大森山(381m)を含む建石山山地などの小起伏山地および四十四田丘陵で構成されている。

雫石川流域 盛岡市街および周辺地の平坦部の地形は大きく3区分される。ひとつは北上川以西雫石川以北で、岩手山の火山活動に伴う火砕流堆積物からなる火山灰砂古地(滝沢古地)が形成され、沖積平野がほとんど発達していない地域である。滝沢古地南縁は沢により開析され、埋没谷が幾筋にも形成される。埋没谷に挟まれた台地縁部には多くの遺跡が立地しており、縄文時代草創期・早期を主体とした大新町遺跡、中期を主体とした大館町遺跡などが立地している。またひとつは北上川以西雫石川以南で、雫石川の影響による沖積段丘(砂礫段丘Ⅲ)が広がっており、奈良～平安時代の集落跡がみられ、9世紀初頭に造営された志波城跡も位置する地域である。中津川・築川流域 北上川以東でその支流となる中津川・築川は建石山山地を開析しながら西流し、流域に発達した低位段丘(砂礫段丘Ⅲ)・中位段丘(砂礫段丘Ⅱ)の地域は山地を出た地点から沖積段丘を形成するが、すぐに北上川と合流する。したがって一部を除き上～中位段丘(洪火山灰層上部以上)をのせる砂礫段丘Ⅰと分火山灰層をのせる砂礫段丘Ⅱ)があまり発達せず、小起伏山地・丘陵地Ⅱが低位段丘・氾濫平野と接している。本遺跡は建石山山地の西端部およびその縁部に発達した丘陵地や山麓緩斜面に立地し、その下には中津川・築川で形成された広い低位段丘(砂礫段丘Ⅲ)が形成されている。

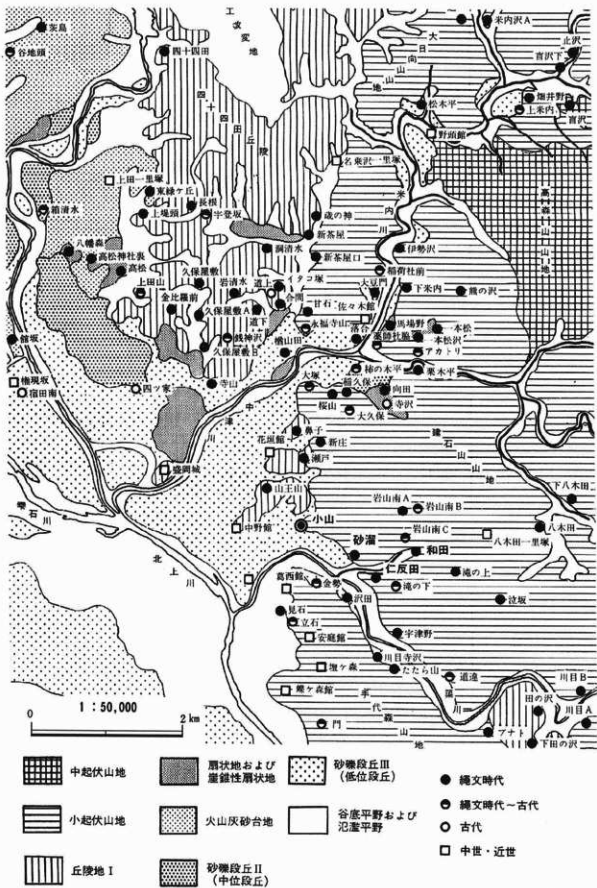
北上山地 北上山地は日本列島の中でも形成年代の古い地層が分布する地帯であり、地質構造上、古生代や中生代の堆積岩および花崗岩からなる。北上山地はその主要な境界である早池峰構造帯により、北部北上山地と南部北上山地に区分される。盛岡市東部は早池峰構造帯の西縁にあり、これらの山地縁部には、中津川・築川などの北上川水系の河川やその支流により浸食された丘陵地や中位・低位の段丘が発達している。

盛岡市北東部を流れる中津川は、その最大支流である米内川と盛岡市浅岸付近で合流して水量を増し、市街地を西流して北上川と合流する。中津川と米内川の合流点付近には北西から帯状に分布する珪岩や蛇紋岩が露出しており、特に蛇紋岩帯を突き抜ける破砕帯には、蛇紋岩が熱水変質を受けて生成された滑石が産出する。

米内川の源流を越え、北上山地の高原地帯となる外山地区では、幾筋もの沢によって丘陵地が開析され、その流れは丘陵間の低平地を埋め小規模な湿地を形成させる。外山地区では沢・湿地に沿う緩やかな斜面に遺跡が分布しており、当地域で最大規模であった湿地帯を改変して建設された岩洞湖湖畔には数多くの旧石器～平安時代遺跡が分布する。

築川は盛岡市東部、北上山地の分水嶺となる岩神山(1,103m)の西斜面より流れ、最大支流である根田茂川と盛岡市水沢付近で合流し、閉伊街道(宮古街道)に沿って蛇行しながら、盛岡市東安庭付近で北上川と合流する。その流れは丘陵地や高位段丘面を開析して流域沿いに中・小規模な低位段丘を形成する。築川上流域にも蛇紋岩が分布しているが、上記した浅岸付近の蛇紋岩のように樹脂光沢を帯びるものは少ない。また、築川の源流域付近には黒色の粘板岩が分布しており、転石となった粘板岩は築川流域各所で入手が可能で、粘板岩を加工した石器は築川流域の諸遺跡で見ることが出来る。

奥羽山脈 奥羽山脈は北上山地に比べると比較的新しい新第三紀からなる非火山地域と、第四紀に形成された新規火山地域に区別される。岩手山はこの新規火山地域に含まれる。奥羽山脈より東流する雫石川は、雫石盆地を形成し盛岡市北の浦付近において急激に流路が狭められ、北上平野に流れ込む。雫石川の水源地となる奥羽山脈では頁岩が豊富にあり、安山岩や凝灰岩など火山起源の岩石も豊富な地域である。これらの岩石は雫石川に転石となって容易に採取することが出来る。また、安山岩・凝灰岩帯では玉髄も産出し、滝沢市盛岡山では赤色の玉髄が大量に産出することで有名で、江戸時代より火打ち石の原料として採掘が行われていた。盛岡市内でも、盛岡山から連なる沼森山南端にあたる雲付近より白色の玉髄が産出する。



第3図 地形分類と周辺の遺跡

3. 歴史的環境

旧石器時代 旧石器時代の遺跡は、市街地から北東へ約9kmの葦川字外山に小石川遺跡が所在する。山間部の小河川を臨む山後末端上にあり、木葉形尖頭器や石核、剥片、台石などが出土している。また、小石川遺跡対岸となる相ノ山山麓には細石刃や石核の採集された大橋遺跡が所在する。その他にも前九年二丁目に所在する飽坂遺跡や、上田字松屋敷に所在する四十四田B遺跡より旧石器の可能性のある石器が過去に採集されている。

縄文時代 縄文時代草創期の遺跡は、北上川西岸、滝沢台地上に立地する大新町遺跡・大館町遺跡・安倍館遺跡より、「爪形文土器」が出土している。大新町遺跡では2,000点を超える爪形文土器片及び削器を主体とした石器群が出土している。安倍館遺跡では地点を異にして爪形文土器片と押圧剥離による両面加工石器が出土しているほか、早期初頭の無文土器や羽状縄文を主体とした石器群が発見された。薬川流域では山王山遺跡より早期初頭の無文土器が発見されており、最上流域に所在する益花遺跡では早期前葉から中葉にかけての沈線文土器が出土している。

縄文時代前期は日本列島全体で温暖化が進み、遺跡数が増加し大規模な集落が出現する時期である。しかし、盛岡周辺に限っては北上山地内に散見するのみで遺跡の数は少ない。これは、約6,000年前に発生した岩手山の火山活動による自然災害の影響が関連しているものと考えられる。例として、北上川西岸にあたる岩手山麓に所在する厨川地区では、総遺跡数35箇所を数え、内11遺跡で早期から前期初頭の遺物が確認されている。しかし前期前葉から中葉にかけての遺物は極めて少なく、僅かに大館町遺跡、小屋塚遺跡から土器片が出土したのみである。しかし、中期になると14遺跡と増加に転じ、岩手県指定史跡大館町遺跡など拠点的な遺跡も出現する。

一方、北上川東岸の北上山地沿いでは、上八木田I遺跡、川目A遺跡、川目C遺跡など前期前葉から後葉にかけての遺跡が存在し、早期以降連続した生活の営みが確認出来る。このように北上川西岸の立地状況とは様相を異にするのは、前述したように岩手山の噴火など自然災害が大きく関わっていた可能性がある。中期前葉以降になると市内各地で大規模な集落が出現し、雫石川流域では鷺V遺跡、猪去館遺跡、上平遺跡、大館町遺跡、中津川・米内川流域では柿ノ水平遺跡、畑井野遺跡、上米内遺跡、盲沢遺跡。薬川流域では小山遺跡、川目C遺跡、戸仲遺跡など主要河川に沿うように集落が営まれる。

縄文時代後期から晩期にかけての遺跡は市内各地で確認されているが、堅穴建物で構成されるような集落遺跡は発見例が少ない。柿ノ水平遺跡や大葛遺跡では10棟に満たない小規模な後期初頭の集落。萩内遺跡や油壺遺跡では後期から晩期の集落が確認されている。また、姫神山山麓に位置する宇登遺跡、太田地区に所在する上平遺跡では晩期の遺物包含層、乙部地区に所在する手代森遺跡では晩期の集落と遺物包含層が確認されている。小山遺跡に隣接する砂溜遺跡、薬川上流に位置する川目A遺跡では後期の集落及び後期から晩期にかけての遺物包含層が確認されている。小山遺跡の対岸に位置する沢田遺跡では、晩期末葉（大洞A式）から弥生時代前期（砂沢式）にかけての遺物が地表面に散布する。

弥生～古墳 弥生時代の遺跡数は少ないが、浅岸地区の向田遺跡、堰根遺跡で前期（砂沢式期）や終末期（赤穴式期）の土器を伴う堅穴建物跡が確認されている。小山遺跡第35次調査でも弥生時代中期の甕が出土している。古墳時代の集落遺跡は現在のところ確認されていないが、永福寺山遺跡、薬師社脇遺跡、安倍館遺跡で土坑墓群が検出され、永福寺山遺跡、安倍館遺跡では北海道系の後北C2式土器と4世紀代の上師器甕が共伴して出土、薬師社脇遺跡では5世紀代の土師器と鉄鍬・鉄斧など鉄製品、多量のガラス玉や滑石製平玉が出土している。

古 代 古墳時代終末から奈良時代にかけて、雫石川南岸等沖積面の遺跡が飛躍的に増加する。7世紀中葉には上田蝦夷森古墳群、8世紀後葉には太田蝦夷森古墳群、高館古墳群などの終末期古墳が築造され、野古A遺跡、台太郎遺跡、百目木遺跡などで安定した集落が形成される。

9世紀初頭、803年に陸奥国最北端の城柵志波城が造営される。志波城は陸奥北部地域の拠点であったが、雫石川の水害を理由に、813年～814年に徳丹城（矢巾町）へ移転している。その後9世紀中葉より、陸奥北部の経営は鎮守府胆沢城に集約され、各地の集落に官衙的な建物が建設されるようになる。このような建物跡は林崎遺跡、大宮北遺跡、小幡遺跡、堰根遺跡で確認されており、在地の有力者が律令体制を背景に台頭する様子がうかがえる。薬川流域では、山王山遺跡より9世紀代の集落が、北上川と薬川の合流点を望む低段丘上に位置する新山館遺跡からは8世紀から9世紀にかけての集落が発見されている。

中 世 砂溜遺跡の南東部、西流する白滝川と薬川の合流地点の独立丘陵地に仁反田遺跡が位置する。本遺跡は戦国時代末期の仁反田四郎忠常の居館と伝えられ、堀跡や腰曲輪などが地表面からも観察できるが、縄文時代前期末～中期初頭の貯蔵穴群も複合して存在しており、昭和49～52年度・平成13年度に発掘調査が実施された。

Ⅱ 調査内容

1. 平成28年度発掘調査

第41次調査 第41次調査は、岩手県知事公館の北約70m、北上川の支流である築川を北から望む丘陵北斜面に位置する(第2図)。調査区周辺の標高は143m前後をはかる。調査区は、北から南西に延びる丘陵支稜上に位置し、遺跡の中心部は丘陵末端部及び北東からの傾斜の緩い尾根に存在していたものと思われる(現 知事公館付近)。丘陵斜面は湧水により幾筋にも開析され、小規模な尾根状の地形が形成される。本調査区もこのような尾根状地形に位置しており、縄文時代の竪穴建物は尾根頂部に構築され(RA002・003竪穴建物跡)、尾根沿いの埋没沢に遺物包含層が形成される。

調査の結果、縄文時代前期末葉から中期初頭にかけての竪穴建物跡7棟(RA002竪穴建物跡Ⅰ～Ⅴ期、RA003竪穴建物跡Ⅰ・Ⅱ期)、縄文時代前期から中期中葉にかけての遺物包含層が確認された。調査区北西部は1m前後の盛土で覆われ、建物基礎等は盛土内で取まることから、トレンチによる状況確認をした上で地下保存とした。

検出状況 遺構検出は耕作土(Ⅰa層)を除去した段階で行った(第4図)。調査区南半部及び南西部にはⅡ層とした粘質の強い黄褐色・褐色・暗褐色を呈した混合土が堆積し、Ⅱ層からは縄文時代中期初頭から中葉にかけての遺物が含まれ、Ⅱc層からⅢa層にかけての漸移層付近からは縄文時代前期末葉から中期初頭にかけての遺物が多く見られた。Ⅱc層下位にはスコリア粒を含む黒褐色土層(Ⅲ層)が堆積する。Ⅲ層はa・bの2層に細別され、Ⅲa層より縄文時代前期後葉から末葉にかけての遺物が出土した。RA002・003竪穴建物跡はⅢ層上面で検出され、RA002竪穴建物跡埋土にはⅡc層が落ち込む。このことからRA002・003竪穴建物跡はⅡ層が堆積する以前に構築されたことがわかる。Ⅱc層からは縄文時代中期前葉の大木7a式が主体的に出土し、RA002竪穴建物跡からは縄文時代前期末葉の大木6式に近似する土器が出土するなど、土器変遷過程を知る上で重要な知見を得ることが出来た。

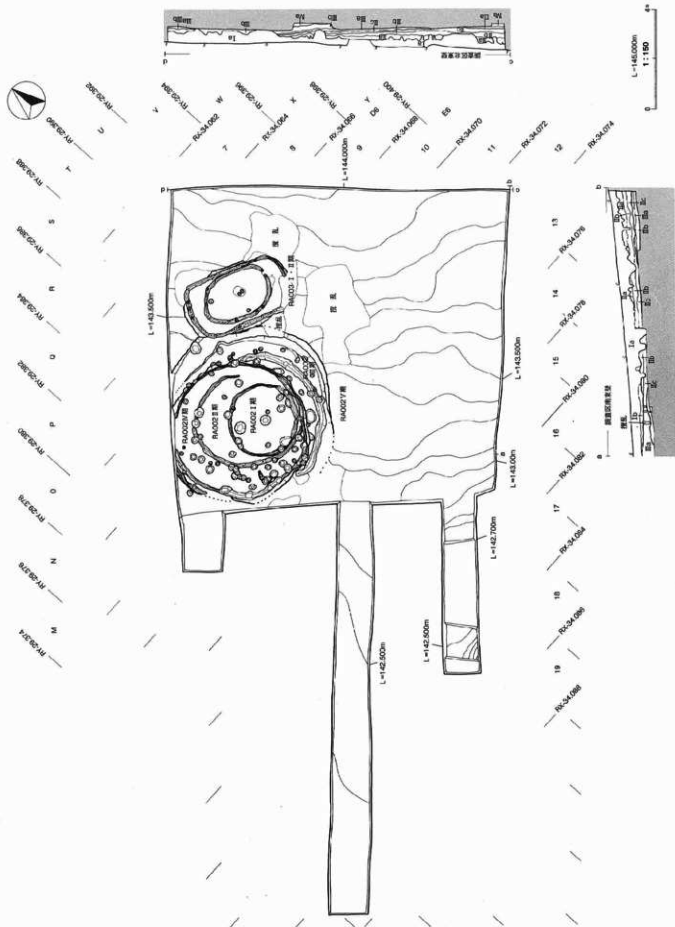
基本層位 第41次調査区は前述したとおり北から南西に延びる丘陵支稜上に位置し、調査区北西縁から北西は傾斜地となり、西に接する第32次調査区を挟み第35次調査区とは約2mの比高差を持つ。調査区北東から南東にかけては浅い沢状の低地となり、その低地を埋めるようにⅡ層が厚く堆積する。調査区北西部に位置するRA002竪穴建物跡(Ⅴ期)では、埋土上部にⅡc層に相当する土層が流入しており(RA002竪穴建物跡B1層)、Ⅱc層堆積以前に構築された遺構であることが確認された。

Ⅰ層… a・b層の2層に細別される。Ⅰa層は耕作土で、黒褐色土・暗褐色土による混合土で、細かい雲母を含み、軟らかく締まりのない層である。現代の生活用具等が混入する。Ⅰb層は黒褐色土を主体に粒状の暗褐色土・黄褐色土を僅かに含み、雲母が混入する。縄文時代の遺物を含むが、大部分が耕作により削平・攪乱される。

Ⅱ層… a・b・c層の3層に細別され、全体的に硬く締まるにぶい黄褐色土を主体とする層である。Ⅱa層は暗褐色に近いにぶい黄褐色土を主体に、粒～塊状の黄褐色土を含み、雲母・石英粒・焼土粒・炭化物片が混入する。Ⅱb層はにぶい黄褐色土と粘質の強い黄褐色土による層である。全体的に硬く締まり、僅かに焼土粒・炭化物片を含む。Ⅱc層はにぶい黄褐色土を主体に粒～塊状の黒褐色土、脆く風化した花崗岩片を含む。Ⅱb層に比べやや軟質で、粘質が少ない層である。焼土粒・炭化物片を多量に含み、特にⅢa層へと漸移する層間に遺物が集中する。

Ⅲ層… a・b層の2層に細分され、黒褐色土を主体とする層である。Ⅲa層は塊状のにぶい黄褐色土と脆く風化した花崗岩片、多量の焼土粒・炭化物片を含む。Ⅲb層は焼土粒・炭化物片が微量含まれる黒褐色土層で、焼土粒・炭化物片はⅢa層からの混入物と思われる。

Ⅳ層… 脆く風化した花崗岩片と黄褐色土による層で、粒状のスコリアが僅かに含まれる。全体的に軟らかく締まりのない層で、水分を多く含む。



第4図 小山遺跡第41次調査全体図

2 検出された遺構と遺物

遺構 本調査では竪穴建物跡が2棟検出された（RA002・003竪穴建物跡）。RA002竪穴建物跡は5期に渡る構築が、RA003竪穴建物跡は2期に渡る構築が認められた。出土した土器の特徴から共に縄文時代前期末葉に構築されたものと想定される。

遺物 RA002竪穴建物跡V期床面（上層）より縄文時代前期末葉の太木6式に併行する土器が出土している。沈線による文様が主体的で、隆線は文様帯の区画に多用されるようである。下層となるIV期床面及び埋土からは木目状捺糸文を地文とし、頸部に隆帯を持つ土器が出土している。特筆されるのは多量の礫石器で、両端に打撃を加えた石錘が遺構内だけでなく遺物包含層からも多量に出土した。小山遺跡は以前より縄文時代の遺物が採集できる遺跡として有名であったが、とりわけ石錘が多く採集されておりその特殊性が目されていた。

(1) 縄文時代の遺構

RA002竪穴建物跡（第5～26図）

検出状況 本建物跡は調査区西部で検出されたもので、建物跡西縁部の一部は市道下になる。古い時期からI期・II期・III期・IV期・V期としたが、柱穴や周溝等で新旧が不明確なものもある。建物跡の構築時期はI～IV期の古段階（下層）とV期（上層）の新段階に区別することが出来る。これは、自然堆積と思われるIV期の埋土が、V期に削平されていることから大きく新旧2段階に大別できるものと思われた。なお、IV期床面は多量の湧水により柱穴等の精査が困難な状態となり、I・II期の遺構を含め固着ができなかった箇所がある。

遺物はIV・V期に集中する。特に最終時期であるV期の床面には略定形の深鉢（第10図40）、加工痕のある大形の楕円礫（第19図40）が残されていた。

I期（第5図）

時期 縄文時代前期末葉 **平面形** 円形（周溝のみ） **重複関係** IV期に切られる
規模 上端3.05m（周溝外径）・下端2.50m（周溝内径）、周溝深さ0.03～0.08m
掘込面 削平 **検出面** IV期床面
埋土 周溝のみ検出されたもので、湧水により周溝断面の層位図化は実施できなかった。埋土は黒褐色土を主体とし、塊状の花崗岩風化土を含む。
炉 なし **床面の状態** ほぼ平坦である。 **遺物** なし

II期（第5図）

時期 縄文時代前期末葉 **平面形** 楕円形（周溝のみ） **重複関係** IV期に切られる
規模 上端4.39m（周溝外径）・下端4.22m（周溝内径）、周溝深さ0.05～0.08m
掘込面 削平 **検出面** IV期床面
埋土 周溝のみ検出されたもので、湧水により周溝断面の層位図化は実施できなかった。埋土は黒褐色土を主体とし、塊状の花崗岩風化土を含む。
炉 なし **床面の状態** ほぼ平坦である。

遺物（第17図32） 32は扁平な礫の両面両端に打撃を加えた石錘である。

III期（第5図）

時期 縄文時代前期末葉 **平面形** 円形（周溝のみ） **重複関係** IV期に切られる
規模 上端3.05m（周溝外径）・下端2.50m（周溝内径）、周溝深さ0.16～0.59m
掘込面 削平 **検出面** V期床面
埋土 周溝のみ検出されたもので、埋土は黒褐色土を主体とし、A1層はスコリア粒を微量含む黒褐色土、A2層は粒～小塊状の黄褐色土を含む黒褐色土である。
炉 なし **床面の状態** 不明 **遺物** なし

IV期（第6・8～10・14・16～18図）

時期 前期末葉 **平面形** 円形 **規模** 上端長軸5.58～5.36m、下端5.04～5.17m 壁高0.20～0.25m
重複関係 V期に切られる **掘込面** V期に削平 **床面の状態** ほぼ平坦 **炉** なし
ビット P1～51が検出されている。各ビットの深さは次のとおりである。P1-0.37m・P2-0.48m・P3-0.33m・P4-0.36m・P5-0.25m・P6-0.31m・P7-0.50m・P8-0.08m・P9-0.29m・P10-0.32m・P11-0.50m・P12（周溝2）-0.32m・P13-0.22m・P14-0.23m・P15-0.06m・P16-0.25m・P17-0.09m・P18-0.28m・P19-0.10m・P20-0.22m・P21-0.08m・P22-0.37m・P23-0.20m・P24-0.29m・P25-

0.19m・P26-0.15m・P27-0.21m・P28-0.43m・P29-0.16m・P30-0.06m・P31-0.11m・P32-0.14m・P33-0.10m・P34-0.18m・P35-0.31m・P36-0.08m・P37-0.25m・P38-0.68m・P39-0.28m・P40-0.72m・P41-0.13m・P42-0.37m・P43-0.08m・P44-0.12m・P45-0.08m・P46-0.51m・P47-0.46m・P48-0.28m・P49-0.19m・P50-0.23m・P51-0.14m。周溝1-0.14m・周溝3-0.14m・周溝4-0.11m・周溝5-0.08m

竪穴埋土 A～E層に大別され、A・B層は竪穴埋土、C・E層はビット埋土である。B層は3層（B1～3層）に細別される。

A層- A1層は暗褐色に近い黒褐色土を主体に粒から塊状のぶい黄褐色土を少量含む。上面はV期の床面となり硬く締まる。焼土粒・炭化物片を少量含む。

B層- B層は3層に細分され、B1層は暗褐色土を主体に粒～塊状黒褐色土・黄褐色土を含む層。B2層は黒褐色土を主体に塊状の黄褐色土を含む層。B3層はぶい黄褐色土と粒から塊状の黒褐色土が混合する層である。各層に焼土粒・炭化物片を少量含む。

C・D層- P1～51の埋土となるが、C1層としたものはB3層と大きく変わらず、僅かにぶい黄褐色土が多く含まれる。D層はビットの掘り方埋土で、ぶい黄褐色土を主体に粒～塊状の明黄褐色土を含む。

E層- P43にのみ確認された層で、明黄褐色を主体とする層である。

遺物出土状況 P22より礫石器が出土している（第8図・第17図33、第18図36）。

出土遺物（第9図1～第10図39、第14図1～3・第16図31・第17図33～第18図39）

土器（第9図1～第10図39） 1～4は床面に張り付いた状態で出土した深鉢体部であるが、驚く細片化していたため、図示した土器片は4点である。1～4は器面に木目状捺糸文を施した深鉢体部片である。5～9は木目状捺糸文、10～11は網目状捺糸文、12は捺糸圧痕を施す深鉢体部片である。13～18は同一個体の深鉢で、頸部に隆帯が走り、隆帯上には原体圧痕が斜位に施される。隆帯の縁には原体圧痕が横位に1条施され、隆帯より下位には縦位の結節縄文が施される。19～25は同一個体の木目状捺糸文が施される深鉢体部で、25は底部付近の部位である。26～30は同一個体の深鉢で、口唇部は帯状に厚く整形され、緩やかに屈曲する頸部下には指頭圧痕が押しされた隆帯が走る。31は捺糸圧痕を山形状に施し、文様間に横位の捺糸圧痕を施す。32・33は口縁部が外反する深鉢口縁部片で、口縁下に縦位の捺糸文を施す。34は横位の捺糸圧痕が施され、35～38は木目状捺糸文、39は網目状捺糸文が施される深鉢体部片である。

石器・石製品（第14図1～3・第16図31・第17図33～第18図39） 1は頁岩を素材とした横刃の石匙で、つまみ及び剥片上縁を刃先に剥離整形する。2は頁岩を素材とした縦長の剥片で、腹面右側縁に刃こぼれと思われる微細剥離痕がみられる。3はメノウを素材とした厚い剥片の両面に剥離が施される削器である。31は黒色を呈した滑石製の球状耳飾で、穿孔部より半分が欠損する。33～35は敲打痕、長刃に摺面を持つ敲打磨石である。33・36はP22より一括して出土したもので、33は一端が欠損する敲打磨石、36は両面に剥離が施される礫器で3刃に刃部が造り出される。34は破損した敲打磨石で、摺面端部に使用による剥離痕がみられる。35は両端からの打撃痕がある敲打磨石である。33・34は凝灰岩、35・36は輝緑凝灰岩を素材とする製品である。37・38は長刃中央付近に剥離を施して抉りを作出した石錐である。37は砂岩、38は輝緑凝灰岩を素材とする。39は輝緑凝灰岩を素材とし、全周縁を磨き、楕円形に整形した円盤形石製品である。

V期（第7・8・10～16・19～26図）

時期 前期木業 平面形 楕円形? 規模 長軸上端6.63m以上・下端5.07m以上、短軸上端6.04m以上・下端5.11m以上、壁高0.46～0.58m。

重複関係 IV期の竪穴埋土を床面にする。掘込面 IIIa層 床面の状態 ほぼ平坦であるが、IV期の平面形にかかる部分（中央部分）は窪みとなる。床はIV期の埋土上であるため暗褐色に近い黒褐色を呈するが、粘性のあるぶい黄褐色土が斑点状に薄く分布し、硬く締まる。

炉 地床炉が3基（炉1～3）検出された。炉1は薄い焼土範囲を確認したのみで、熱浸透の深さを確認することが出来なかった。規模は長軸0.45m・短軸0.29mの楕円形を呈する。炉2は0.58m×0.52mの不整形形を呈する。熱浸透は0.08m程で、上面は硬く締まる。北側にはP15があり、明らかな重複関係はない。北東側には加工痕のある大形の楕円礫（第19図40）が横倒しの状態で検出されている。炉3は0.51m×0.48mの不整形形をNo1・2が出土している。No1は図示していないが珪岩礫、No2は敲打痕及び剥離痕のある大形の礫石器である。これら2点の礫及び礫石器は固定・設置したものではないことから、炉に付属する施設（石囲部）ではないものと思われる。熱浸透は0.03m程であるが、硬く締まり、中心部付近は明るい赤褐色を呈する。

ビット P1～35が検出されている。各ビットの深さは次のとおりである。P1-0.50m・P2-0.30m・P3-0.18m・

P4-0.16m・P5-0.24m・P6-0.48m・P7-0.15m・P8-0.16m・P9-0.14m・P10-0.33m・P11-0.10m・P12-0.30m・P13-0.52m・P14-0.34m・P15-0.20m・P16-0.37m・P17-0.29m・P18-0.57m・P19-0.37m・P20-0.38m・P21-0.18m・P22-0.55m・P23-0.20m・P24-0.27m・P25-0.12m・P26-0.16m・P27-0.14m・P28-0.32m・P29-0.22m・P30-0.25m・P31-0.12m・P32-0.32m・P33-0.43m・P34-0.46m・P35-0.19m。

堅穴埋土 A～C層に大別され、B層は2層（B1～2層）、C層は4層（C1～4層）に細別される。

A層- A1層は黒褐色土を主体に粒から塊状の暗褐色土を少量含む。焼土粒・炭化物片を多量に含む。

B層- B層は2層に細別され、B1層は黒褐色土を主体に塊状の黄褐色土を含む層。B2層にはよい黄褐色土を主体に粒～塊状の黒褐色土、脆く風化した花崗岩片を含む。B2層は包含層のⅡC層と大きく変わらぬ。B2層からC1層にかけての層間からはA1層に比べ土器・石器が多く出土する。

C層- C層は4層に細別され、C1層は暗褐色土を主体に粒から塊状のよい黄褐色土、粒から塊状の黒褐色土を含む混合土。炭化物片を含み、土器・石器などの遺物を含む。C2層は黒褐色土を主体に粒状の黄褐色土・暗褐色土を含む。焼土粒・炭化物片を多量に含む、全体的に水分が多く軟らかく緩い。C3・4層は堅穴壁際に堆積する層で、壁の崩壊土と思われる。C3層は黒褐色土を主体に粒から塊状の黄褐色土を含み、C4層は黒褐色土を主体に粒から塊状の暗褐色土と微量の炭化物片を含む。

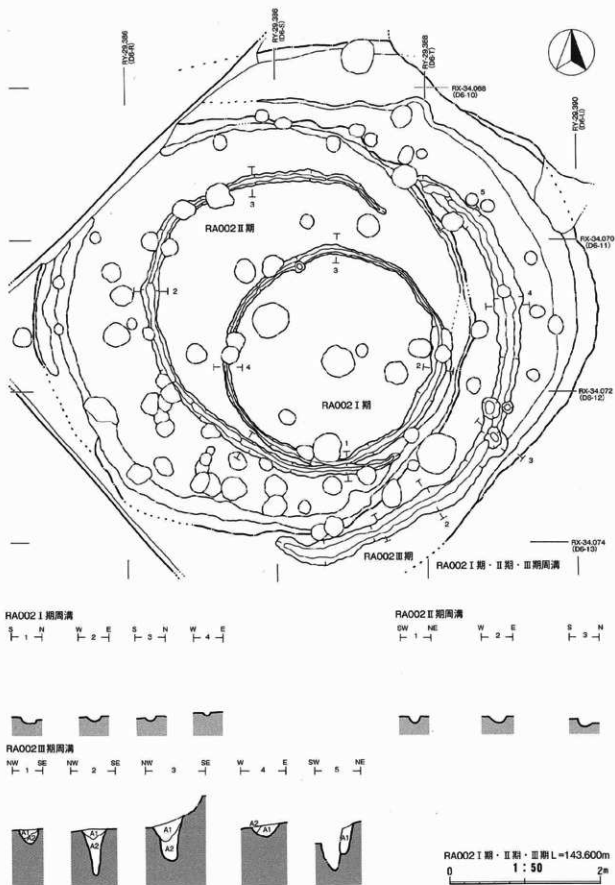
遺物出土状況 床面より土器№1・2、石器№1～5が出土している。石器№1について、加工痕がない際であるため実測図化はしていないが、透明感のある乳白色、緑色部が互層となる珪岩であり、小山遺跡周辺では見ることがない岩石であり、持ち込まれた岩石であることが思われた。肉眼的には、直線距離で北東約30kmの岩洞付近より採集することが出来る珪岩に近似しており興味深い（第28図版（11））。

出土遺物（第10図40～第13図153、第14図4～第16図30・第19図40～第26図81）

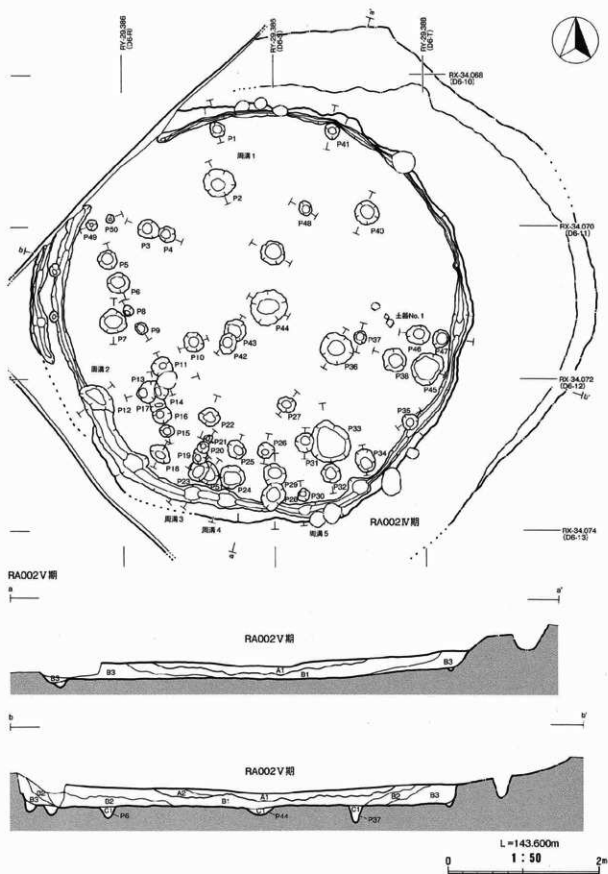
土器（第10図40～第13図153） 40（土器№1）は床面に横転した状態で出土した深鉢である。口縁部は外反し体部上半に最大径を持つ球形深鉢である。口縁部には沈線による山形文が横位に施され、文様下には縄の結節部が縦位に施される。41（土器№2）は深鉢形土器体部から底部にかけての個体で、単節縄文が横位に施される。42は隆帯に指頭圧痕を施す深鉢頸部片である。43から50は結節縄文が縦位に施される深鉢体部片である。51は結節縄文を横位に施すものである。52は口縁部が外反する深鉢口縁部片で、口唇下に5条の横位平行沈線を施し、緩やかに屈曲する頸部に刻目を持つ隆帯を巡らすものである。53は押引文横位多段に施す深鉢口縁部片である。54～64は同一個体の深鉢口縁部片である。口唇下にボタン状の貼付文を施し、貼付文を中心に縦位弧状の沈線を充填施文するものである。61～63は結節縄文を縦位に施す深鉢体部片である。64は横位に結節縄文を施す深鉢体部片である。65は沈線による鋸歯状文を施す深鉢体部片である。66～68は羽状縄文を施す深鉢体部片である。69・70は単節縄文を施す深鉢体部片である。71は多軸燃糸文、73～75は木目状燃糸文、76～78は網目状燃糸文が施される深鉢体部片である。79・80は同一個体の深鉢体部から底部にかけての深鉢で、器面には結節縄文が施される。81～84は同一個体の深鉢形土器である。波状突起を持つ口縁部で、波頂部より横位多段の短沈線が施される隆線が垂下する。垂下する隆線間は横位平行沈線によって連結され、横位平行沈線間には沈線による鋸歯状文が施される。85は波頂部より横位多段の短沈線が施される隆線が垂下する深鉢口縁部片である。86・87は横位平行沈線に沈線による鋸歯状文が施される深鉢口縁部片である。88は深鉢頸部で、屈曲部には刺突を施す隆帯が巡り、隆帯より上部には横位平行沈線と鋸歯状文が施される。89は結節縄文が施される深鉢体部片である。90・91は原形圧痕が施される深鉢口縁部片である。92は無文の外反する深鉢口縁部片である。93・94は無節無段の結束縄文を施した土器で、93は口縁部、94は体部片である。95は結節縄文を、96は結束羽状縄文、97は単節縄文を施した深鉢体部片である。98～101は網目状燃糸文を施した深鉢体部片である。102は三角突起を持つ深鉢で、突起頂部下にボタン状の貼付文が施される。ボタン状貼付文頂部より2条1組の横位平行沈線が口縁部の形状に沿うように施され、頸部の刻目を持つ隆帯との間には斜位の平行沈線を充填施文する。体部には単節縄文が縦位に施されるが、器面の凹凸により押捺が浅い部分がある。103・104は横位平行沈線と沈線に沿う刺突列が施される深鉢で、104は口縁部が外反する深鉢である。105・106は原形圧痕が施される深鉢口縁部片である。107は深鉢の口縁部突起部で頂部は平坦に整形される。108は内面に口唇に沿う隆帯を施す深鉢口縁部片である。109は筒状器形の口縁から体部にかけての深鉢で、器面には結節縄文が施される。110は口唇部に刻目を施す深鉢口縁部片である。111～113は同一個体の深鉢体部片で、器面には結節縄文が横位に施される。114は結節縄文と原形圧痕が施される深鉢体部片である。115は結束縄文が横位に施される深鉢体部片である。116～119は結節縄文が縦位に施される深鉢体部片である。120・121は網目状燃糸文が、122～124は木目状燃糸文が施される深鉢体部片である。125は土器底部で、底面に縄の圧痕が残される。

126は器壁が直線的に開く深鉢である。口唇部は平坦に整形され、口縁部と体部は僅かな段によって区切られる。段上には楕円を呈した粘土粒が貼付される。127・128は横位平行沈線間に沈線による鋸歯状文を施す深鉢口縁部片である。129は刻目を施す隆帯を巡らす深鉢頭部片で、隆帯より上部には沈線による山形文が施される。130は横位平行沈線が施される深鉢体部片である。131は沈線による幾何学文内に、縦位の短沈線を充填施文する深鉢頭部片である。132は口唇が肥大する深鉢口縁部片で、口唇部は外傾し三角状の刺突が施される。133は4条の横位平行沈線とボタン状の貼付文が施される深鉢頭部片である。134は原体圧痕が縦位に施される深鉢口縁部片である。135は口縁部が外反する深鉢で、口唇に沿う横位の結節縄文、頸部から縦位に結節縄文が施される。136は網目状捺糸文が施される深鉢口縁部片である。137・138は同一個体の深鉢体部片で縦位の結束縄文が施される。139~143は沈線による文線が施される深鉢口縁部片である。144~146は刻目のある隆帯を巡らす深鉢である。148は沈線による曲線内に縦位の平行沈線を充填させたものである。149は沈線による波状文を、150は横位平行沈線を施した深鉢体部片である。151は横位の結節縄文、152は網目状捺糸文、153は木目状捺糸文が施された深鉢体部片である。

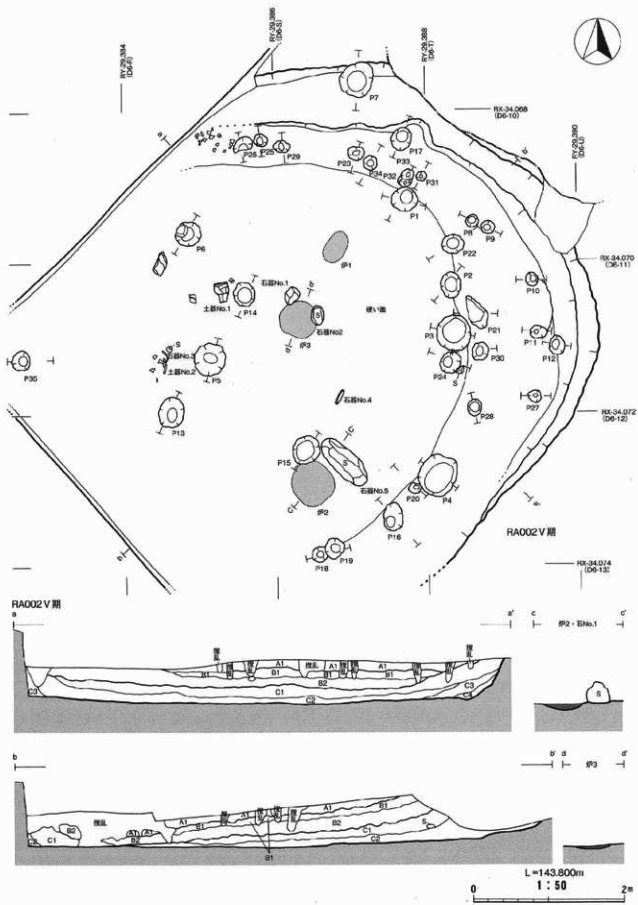
石器・石製品 (第14図4~第16図30・第19図40~第26図81) 4は頁岩製の石錐で、両面全側縁からの押圧剥離で丁寧に整形される。5は頁岩製のつまみ部分が欠損した石匙を削器に転用した石器と思われる。6・7は頁岩製の石匙で、6はつまみ及び背面全周縁を突入に剥離整形する。37は頁岩製の搔器で、背面下端に刃部調整の剥離を施す。9は凝灰岩製の削器で、腹面右側縁に摩耗痕がみられる。10は鉄分を多く含むシルト岩を母岩とした縦長剥片で、全体的に赤い斑点がみられる。11は頁岩製の削器で、腹面左側縁に剥離が施され、刃部は鋸歯状となる。12は頁岩製の削器で、背面右側縁・腹面左側縁に刃部調整剥離が施され、鋸歯状の刃部が形成される。13は粘板岩製の搔器と思われる製品で、下端にある刃部は著しく摩耗する。14は頁岩製の両面調整石器で、全周縁より荒い剥離が施される。15は頁岩製の削器で、背面に礫面が残され背面左側縁に鋸歯状の刃部が形成される。16は頁岩製の石錐で、基部に浅い抉りを持つ。17は頁岩製の有意識であるが、全周縁に整形剥離を施すものの、左右側縁で厚さが異なり未完製品である可能性がある。18は頁岩製の基部が尖る削器で、上部は欠損する。19は頁岩製の削器で、背面に礫面を残し、背面左側縁・腹面右側縁に微細な剥離を施す。20は頁岩製の削器で、背面2側縁に連続剥離を施し、腹面上端に単発的な剥離を施す。21は頁岩製の削器で、腹面左側縁に連続剥離を施し、右側縁に突出した刃部を形成する。22は搔器または削器と思われる頁岩製の石器で、打痕付近に集中した剥離が施される。23は頁岩製の不定形剥片で、部分的に微細剥離がみられる。24は頁岩製の削器で、背面に礫面を残し、両面両側縁に部分的な剥離が施される。25は粘板岩製の削器と思われる石器で、背面全周縁・腹面右側縁に連続剥離が施される。26は頁岩製の削器で、腹面右側縁に粗い連続剥離が施される。27は頁岩製の石錐で、主要な箇所となる機能部は幅広く、基部は直線的に狭く整形される。刃部は鋭い弧を描く切り出し状で、腹面には剥離が施されない。28は頁岩製の石匙で、つまみ部は両面共に突入剥離が施され、背面は押圧剥離による全周縁調整が施される。29は輝緑凝灰岩製の礫器で、小形の敲石と思われる。30は粘板岩製の石製品で、石錐様の形状を呈する。縁辺部は剥離による有意識のち研磨したものである。40は加工痕を持つ大形の長楕円礫である。V期の床面より出土したもので(石器№5)、突出した箇所を大きく剥離し、剥離線を敲打で潰す。石材は凝灰岩と思われるが近隣ではみない岩石である。近似した岩石は雫石川上流域の葛根田周辺で見ることができ、大きさは長さ0.731m・幅0.261mをはかり、重量は50kg以上である。41は輝緑凝灰岩の扁平礫を利用した敲石である。42は珪岩の円礫を利用した敲石で、後に敲打痕が残される。43は輝緑凝灰岩の扁平礫を利用した敲石で、左側縁に敲打による剥離痕が残される。44は花崗閃緑岩製の磨製石斧で、基部欠損後に再利用したものである。45は輝緑凝灰岩製の石錐と思われる礫器で、腹面両端に最終的な剥離を加える。46・47は輝緑凝灰岩の扁平円礫を利用した石錐で、端部に剥離を施し、抉りを作出する。48~56は輝緑凝灰岩製の石錐である。57は溶岩質安山岩製の石錐と思われ、腹面に磨面が形成される。58は花崗閃緑岩製の半月形敲打磨石で、1側縁に磨面、扁平面に敲打痕を残す。59は凝灰岩製の敲打磨石で、中央付近から半分が欠損する。60は花崗閃緑岩製の小形敲石で、全周縁に敲打痕がみられる。61~66は端部に剥離を施し、抉りを作出する石錐である。63は砂岩製でその他は輝緑凝灰岩製である。67は閃緑岩製の敲石で全面に敲打痕がみられる。69は輝緑凝灰岩の打製石斧で、半割した礫を片面のみ加工したものである。70・71は1側面に磨面を持つ敲打磨石で、70は輝緑凝灰岩、71は凝灰岩製である。72~76は端部に剥離を施し、抉りを作出する石錐である。74は石材不明、72・73・75・76は輝緑凝灰岩製である。77は粘板岩製の敲石で、平坦面に敲打痕と僅かな磨面がみえる。78は凝灰岩製の敲石である。半割後に再利用されたものと思われる。79は溶岩質安山岩製の敲石である。80は敲石で、部分的に敲打痕が残される。81は溶岩質安山岩製の台石で、敲打によって窪みが形成される。



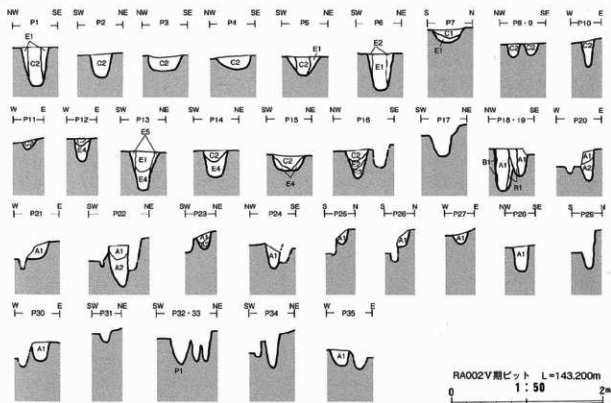
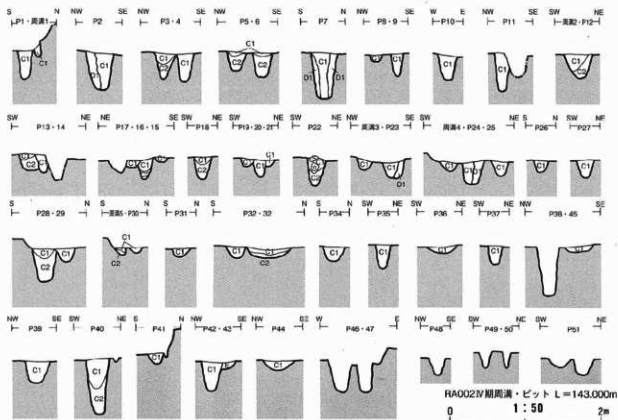
第5図 RA002 堅穴建物跡 (I~III期)



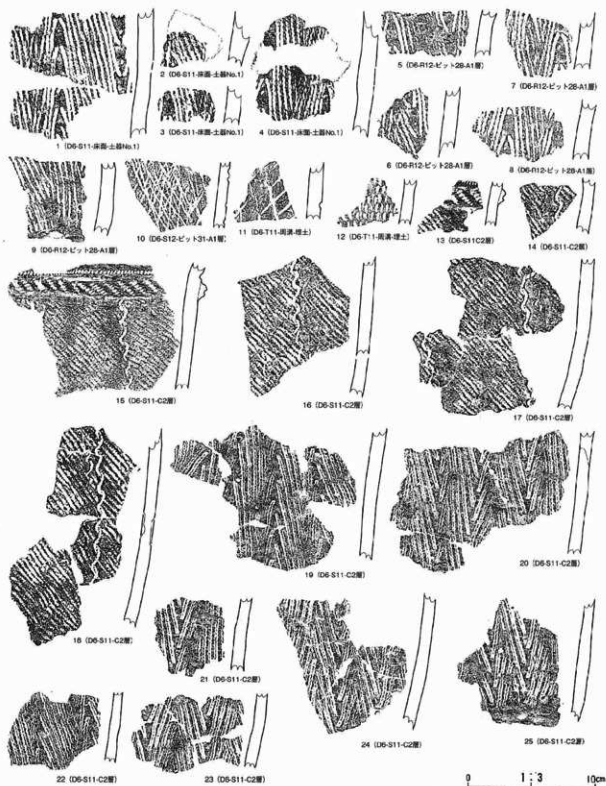
第6図 RA002 竪穴建物跡 (Ⅳ期)



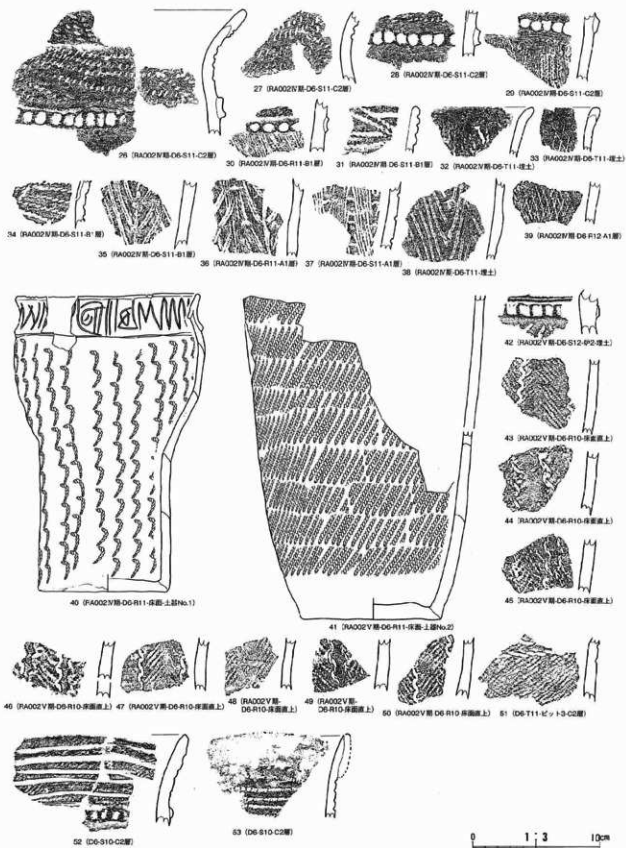
第7図 RA002 竖穴建物跡 (V期)



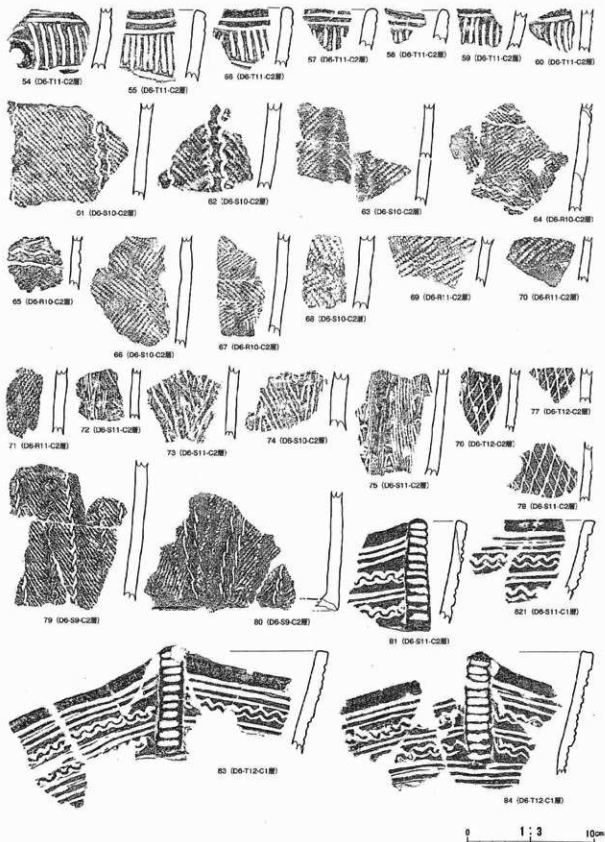
第8図 RA002Ⅴ期竪穴建物跡 (Ⅳ・Ⅴ期) 周溝・ビット断面図



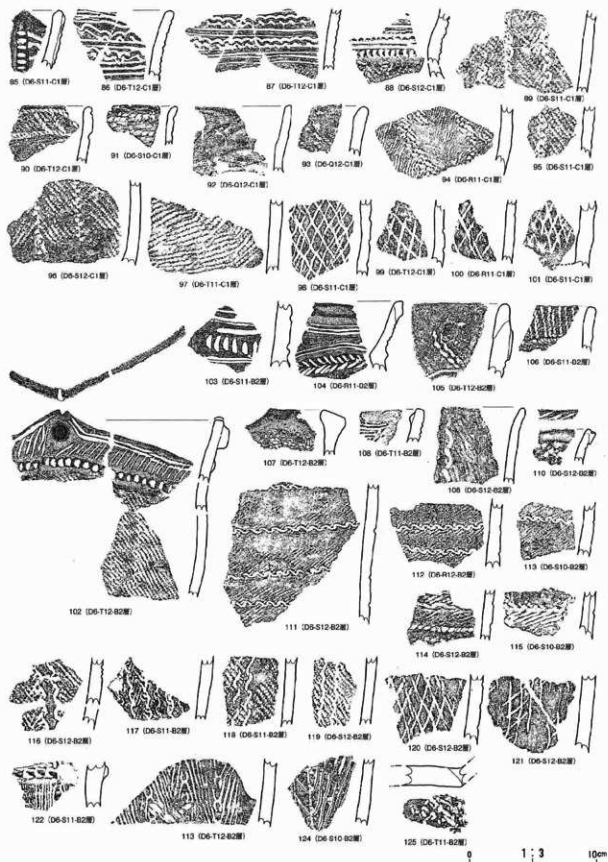
第9図 RA002 竪穴建物跡Ⅳ期出土遺物 (1)



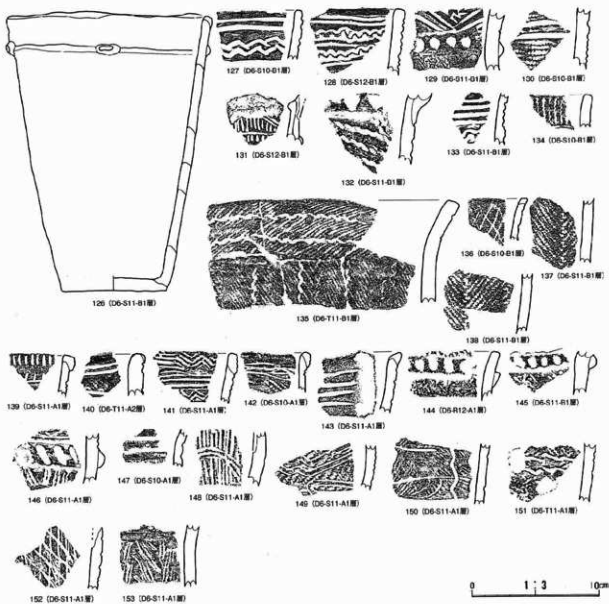
第10図 RA002竪穴建物跡Ⅳ期・Ⅴ期出土遺物(2)



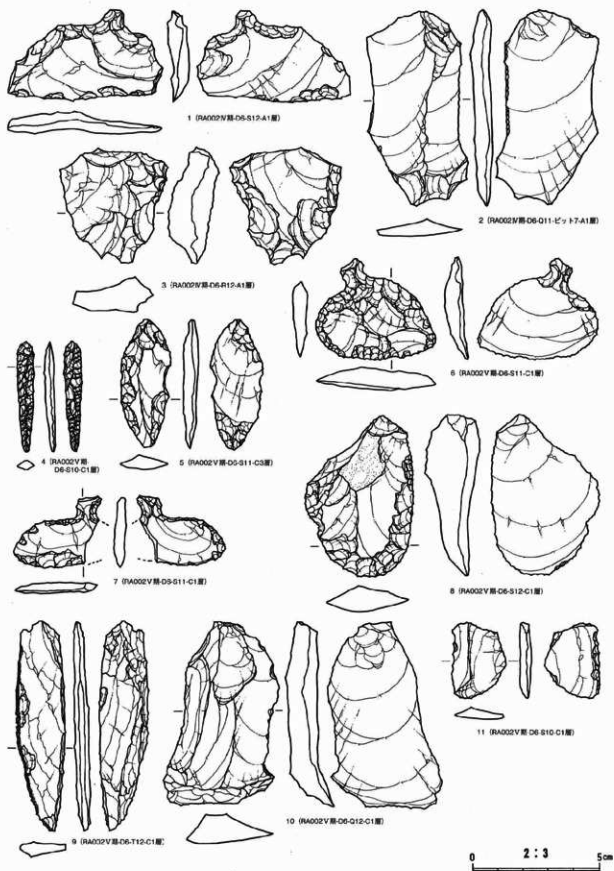
第11圖 RA002豎穴建物跡V期出土遺物(3)



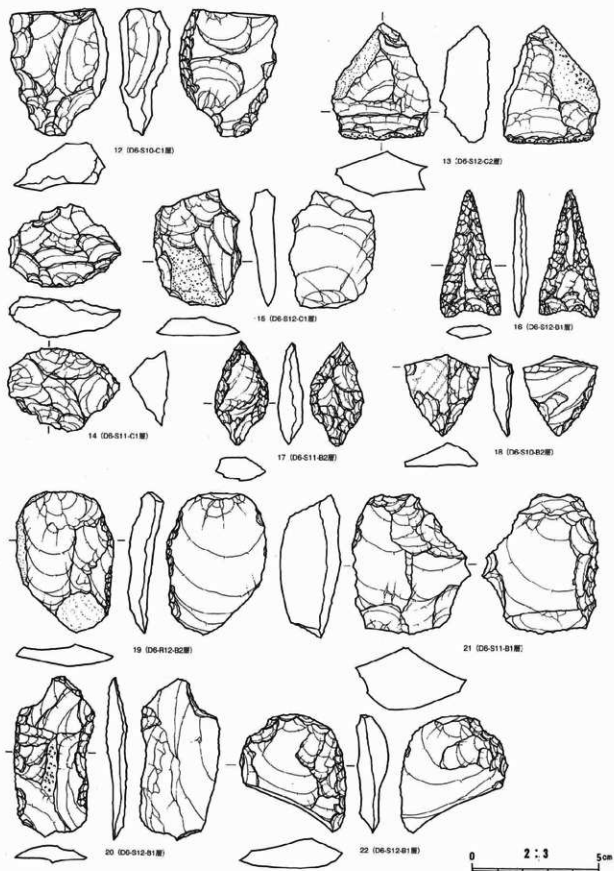
第12圖 RA002 整穴建物跡V期出土遺物(4)



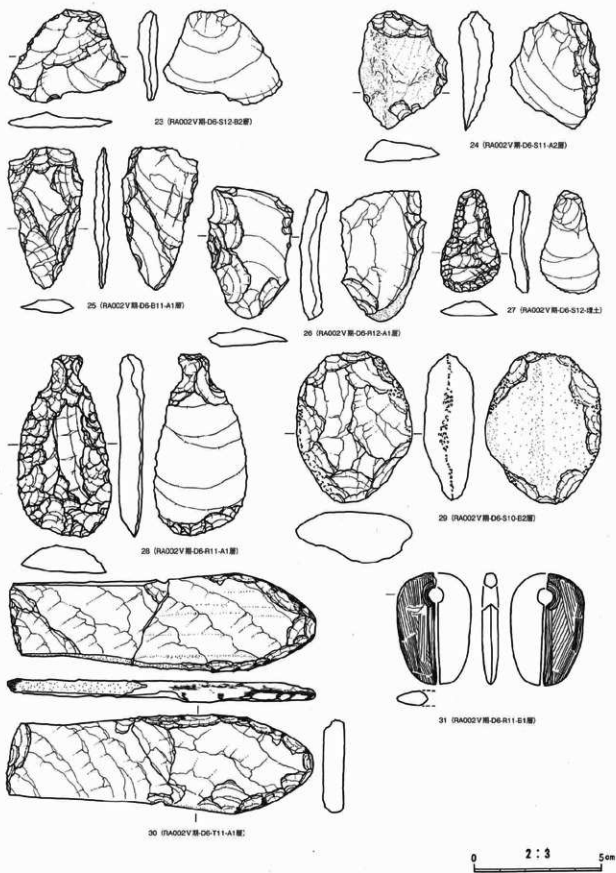
第13圖 RA002豎穴建物跡V期出土遺物(5)



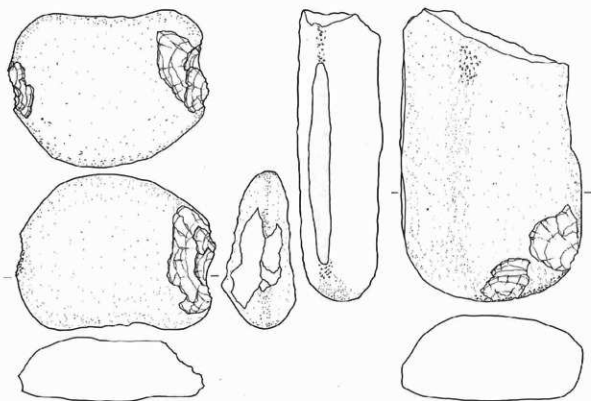
第14図 RA002 堅穴建物跡Ⅳ期・Ⅴ期出土遺物(6)



第15圖 RA002 豎穴建物跡V期出土遺物(7)

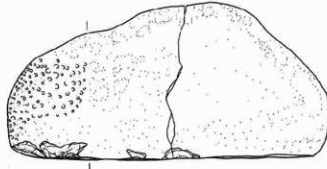


第16図 RA002 竪穴建物跡Ⅳ期・Ⅴ期出土遺物 (B)

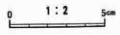


32 (RA002区跡-D5-V14-G1層)

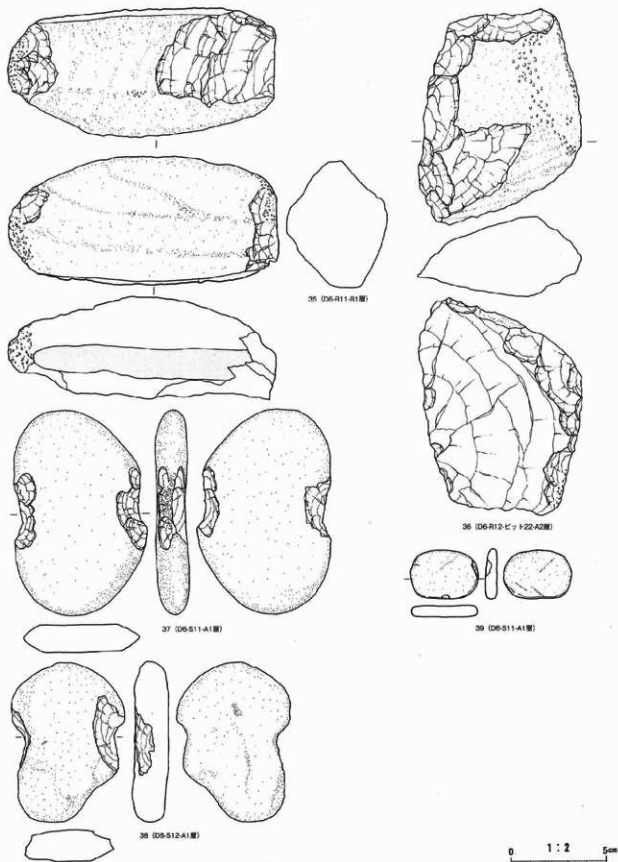
33 (RA002区跡-D5-R12-ピットZ2-A1層)



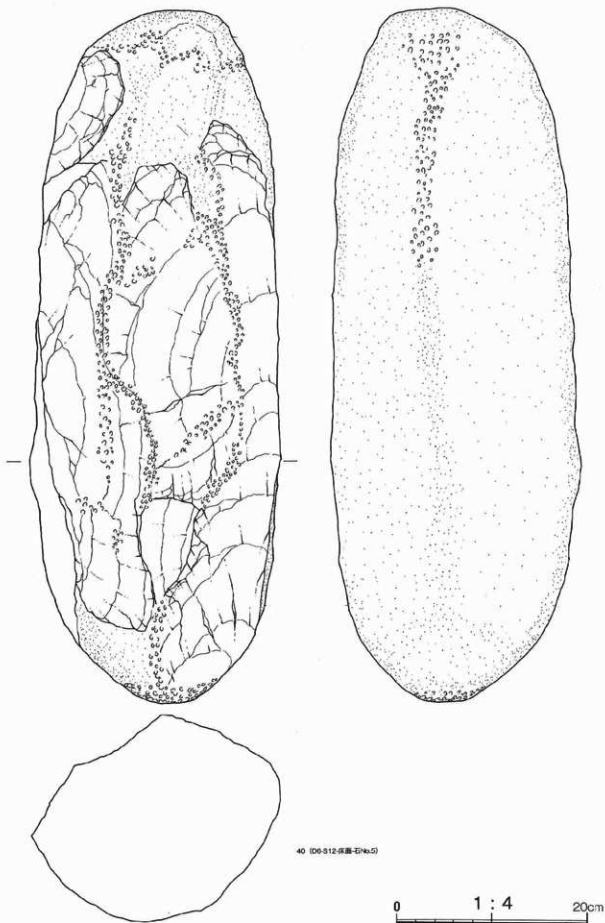
34 (RA002区跡 R12 周溝4 埋土)



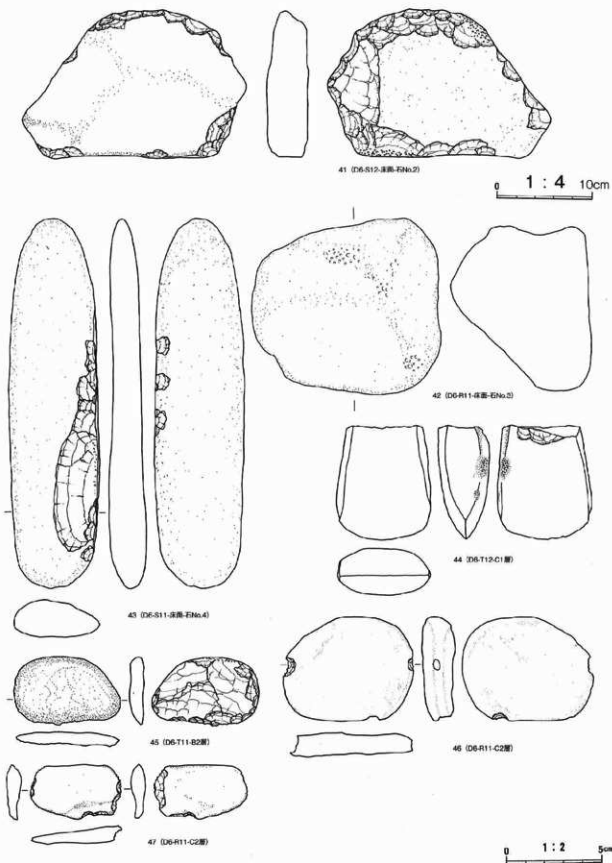
第17図 RA002区跡建物跡Ⅱ期・Ⅳ期出土遺物(9)



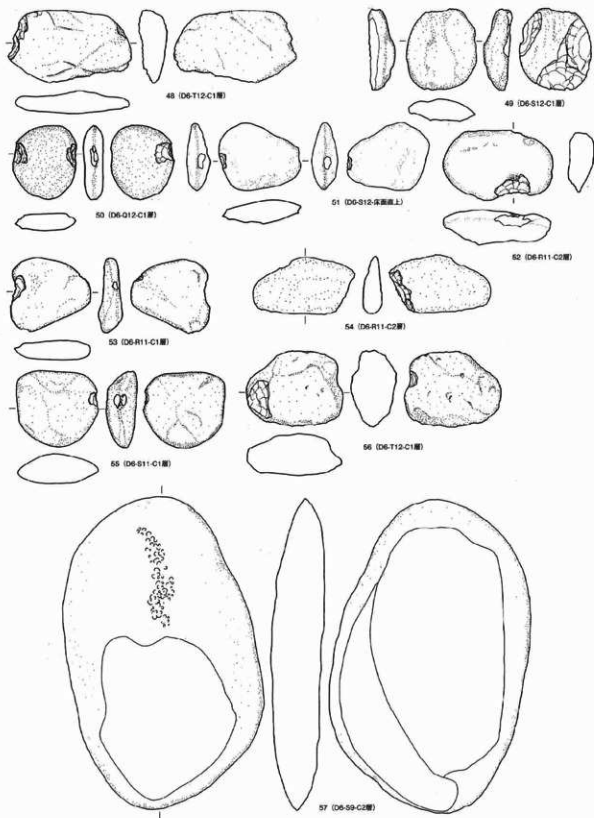
第18図 RAOO2 竪穴建物跡IV期出土遺物 (10)



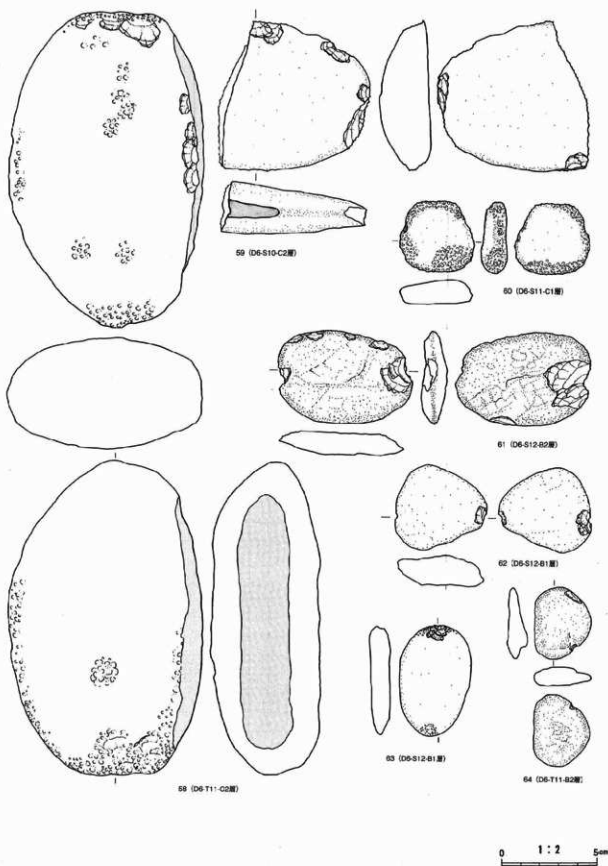
第19圖 RA002豎穴建物跡V期出土遺物(11)



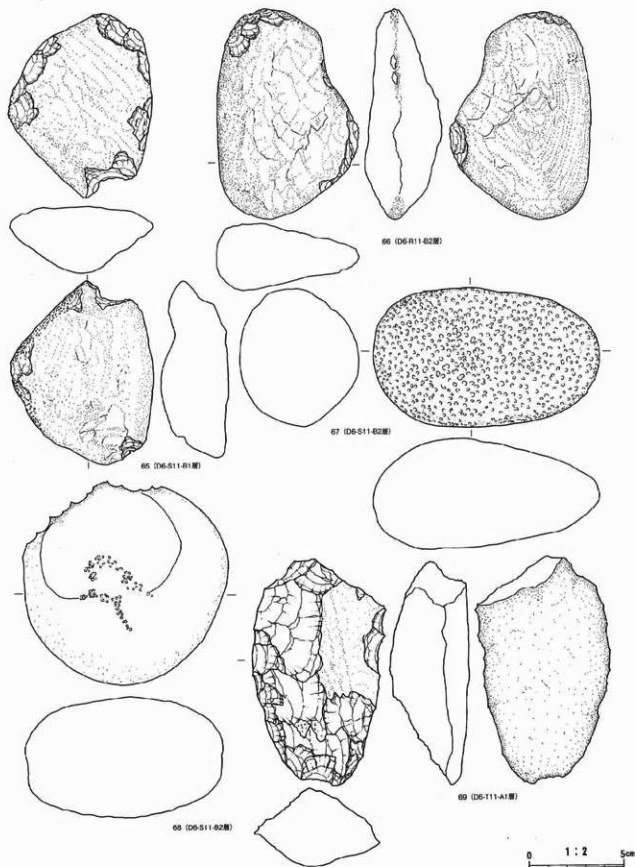
第20図 RAOO2 壑穴建物跡V期出土遺物 (12)



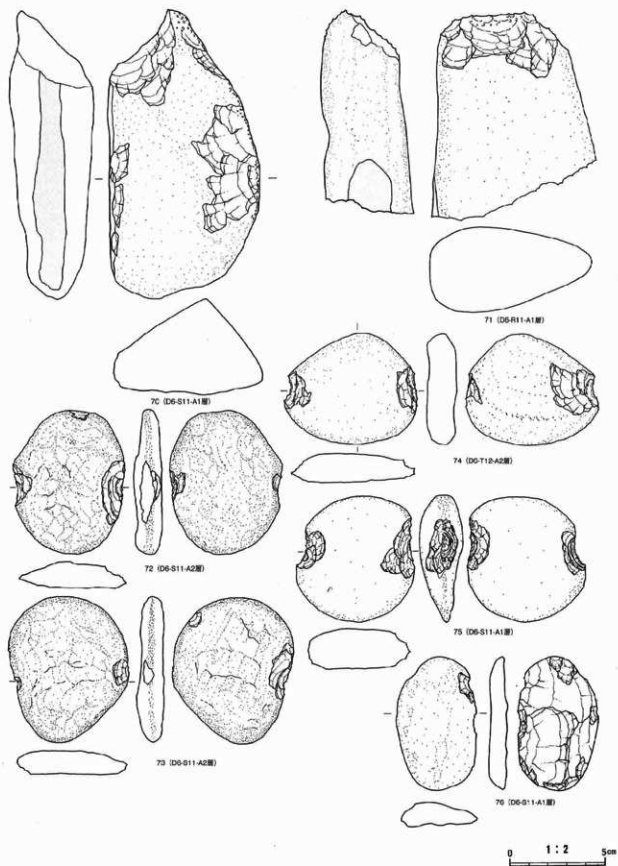
第21図 RA002 竪穴建物跡V期出土遺物 (13)



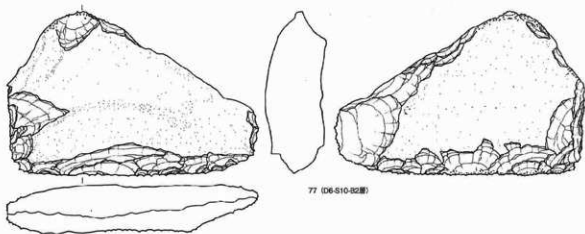
第22圖 RAO 02 豎穴遺物跡V期出土遺物 (14)



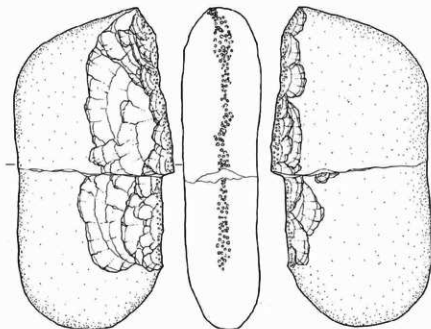
第23图 RAO 02 竖穴建物跡V期出土遺物 (15)



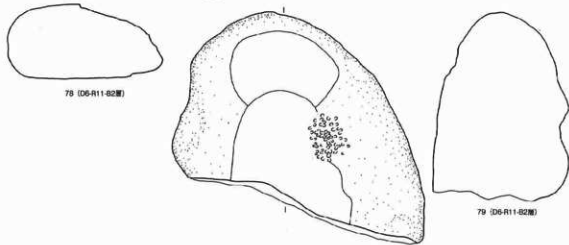
第24圖 RAOO2 豎穴建物跡V期出土遺物 (16)



77 (D6-S10-82圖)



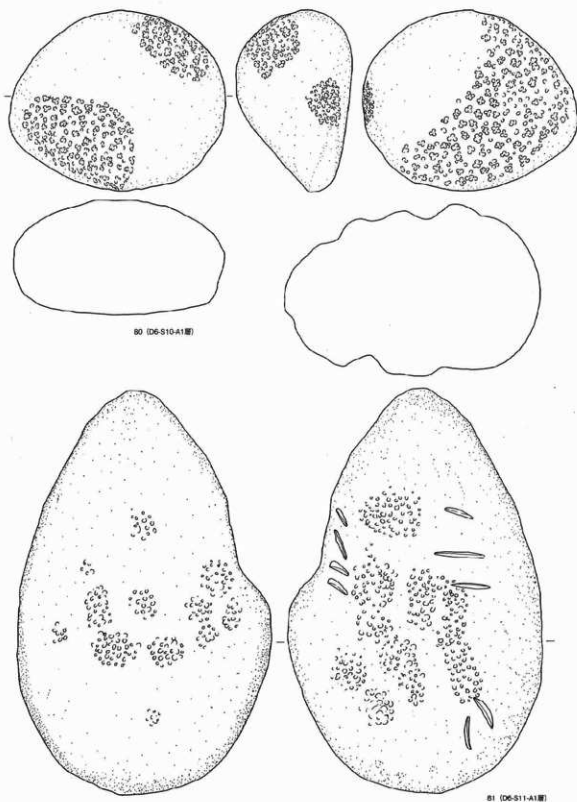
78 (D6-R11-82圖)



79 (D6-R11-82圖)



第25圖 RA002 豎穴建物跡V期出土遺物 (17)



第26圖 R A O O 2 豎穴建物跡 V 期出土遺物 (18)

RA003 竪穴建物跡 (第27~28図)

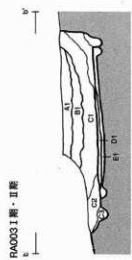
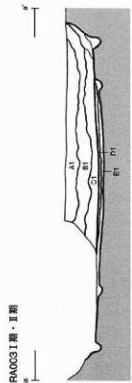
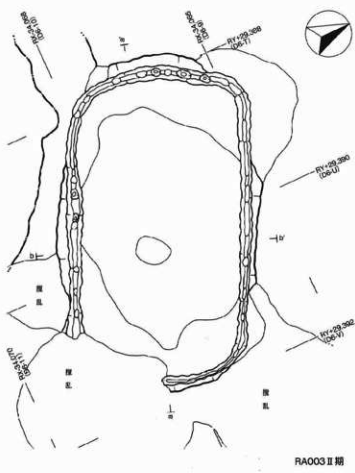
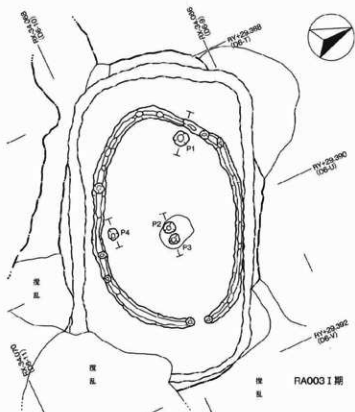
検出状況 本建物跡は調査区西部、RA002 竪穴建物跡の北側に隣接する。古い時期からⅠ期・Ⅱ期としたが、柱穴については新旧が不明確なものもある。

Ⅰ期 (第27図)

時期 縄文時代前期末葉 平面形 楕円形 重複関係 Ⅱ期を切る
 規模 長軸上端2.89m (周溝外径)・下端2.45m (周溝内径)、短軸上端1.98m (周溝外径)・下端1.29m、周溝深さ0.05~0.13m
 掘込面 削平 検出面 Ⅱ期床面
 ビット P1~4が検出されている。各ビットの深さは次のとおりである。P1-0.11m・P2-0.09m・P3-0.10m・P4-0.12m
 埋土 E1層が竪穴埋土となる。黒褐色土を主体とし、粒状の焼土、塊状の花崗岩風化土を含む。
 炉 地床炉 規模 0.95m×0.89m 床面の状態 ほぼ平坦である。 遺物 なし

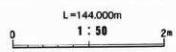
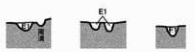
Ⅱ期 (第27・28図)

時期 縄文時代前期末葉 平面形 隅丸長方形 重複関係 Ⅰ期を切る
 規模 長軸上端4.95m・下端4.20m、短軸上端2.65m・下端2.45m・短軸上端 .05~0.08m、壁高 0.48m
 掘込面 Ⅲa層 検出面 Ⅲa層上面
 竪穴埋土 A~D層に大別され、C層は3層(C1~3層)に細別される。
 A層- A1層は黒褐色土を主体に粒から塊状の暗褐色土を少量含む。焼土粒・炭化物片を少量含む。
 B層- B1層は黒褐色土と暗褐色土による混合土層。焼土粒・炭化物片を少量含む。
 C層- C層は3層に細別され、C1層は黒褐色土を主体に粒から塊状のふい黄褐色土を少量含む。炭化物片を多量に含む。C2・C3層は竪穴壁際に堆積する層で、C3層は周溝埋土となる。C2・C3層は壁の崩壊土と思われる、黒褐色土を主体に粒から塊状の黄褐色土・暗褐色土、地山に多量に含まれる花崗岩風化土を含む。
 D層- D1層はⅡ期の貼床で、黒褐色土とふい黄褐色土の混合土である。全体的に硬く締まる。
 炉 地床炉 0.45m×0.35m 床面の状態 ほぼ平坦である。
 遺物 (第28図1~19) 1は口唇下に横位多段の原体疔痕を施し、下位に横位の結節縄文を施す深鉢口縁部片である。2は縦位の結節縄文を施す深鉢体部片である。3は網目状燃糸文を施す深鉢体部片である。4は結束羽状縄文、5は単節縄文を横位に施す深鉢体部片である。6は条の乱れた燃糸文を縦位に施す深鉢口縁部片である。7は原体疔痕を施す深鉢頸部片である。8・9は木目状燃糸文、10・11は網目状燃糸文を施す深鉢体部片である。12は複合口縁を持つ深鉢口縁部片で、胎上に海綿骨針を含む。13は口縁が外反する深鉢で、頸部には刻目を持つ隆帯が巡らされる。14~17は輝緑凝灰岩扁平礫の端部に剥離を施し、抉りを出した石鏃である。18は砂岩製の礫器で、側縁を剥離し、粗い刃部を形成する。19は凝灰岩製の磨石である。

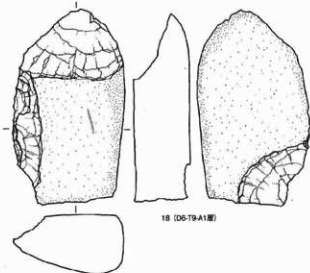
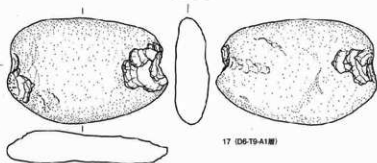
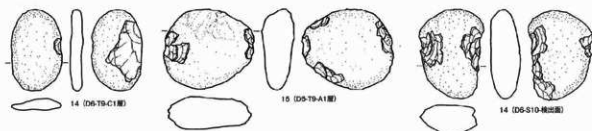
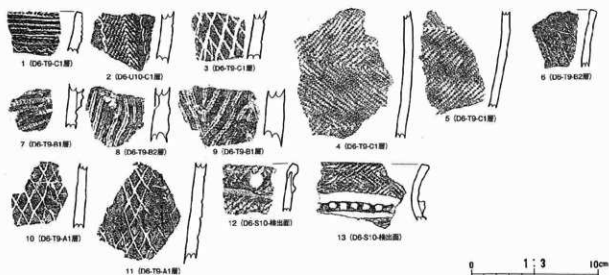


RA003 I期・周溝ピット

SE — P1 — 周溝 — NW W — P2・3 — E W — P4 — E



第27図 RA003 竪穴建物跡 (I・II期)



第28图 RAOO3 竖穴建物跡 I・II 期出土遺物

(2) 遺物包含層出土土器 (第29図1~第37図23)

1・2は胎土に繊維を含む縄文施文土器、3はS字状連鎖沈文が施される深鉢体部片である。4は上部にS字状連鎖沈文、下位に単節縄文を施す深鉢体部片である。5は環状突起を持つ深鉢口縁部片で、突起の平坦面には刺突が施される。6は口唇部に刻目を持つ深鉢体部片で、器面には単節縄文が施される。7~9は網目状熱糸文、10・11は木目状熱糸文が施される深鉢口縁部片である。12・13は斜位に熱糸文を施す深鉢口縁部片である。14・15・17~23は同一個体の深鉢片で、口縁部文様帯と体部間に刻目を持つ隆帯が巡り(14・15)、体部には木目状熱糸文が施される。24~26は網目状熱糸文、27・35は木目状熱糸文が施される深鉢体部片である。28~30は結節縄文が横位に施される深鉢体部片である。31~34は同一個体の深鉢片で、木目状熱糸文が施される。36は口縁部が肥大し、頸部が緩やかに括れる深鉢である。口縁部に沈線による多重の弧文が上下交互に、頸部には2条1組の沈線による山形文、体部には結束羽状縄文が横位多段に施される。37は口縁部が外反する深鉢口縁部片で、横位に熱糸文が施される。30は口縁部に沈線による多重の弧文、下位に刺突を横位多段に施す。39は指頭丘状の刻目を持つ隆帯を施す深鉢片で、隆帯より上位には多重波状沈線、下位には単節縄文を施す。40は横位平行沈線と押し文を交互多段に施す。41は結束羽状縄文、42は結束のない羽状縄文が施される深鉢体部片である。43~47は深鉢底部片で、43・44には網代痕がみられる。48~50は胎土に繊維を含む縄文施文土器、51~53はS字状連鎖沈文が施される深鉢片である。54~58・60は口唇部に刻目を持つ深鉢口縁部片で、55・58・60には単節縄文、59は結節縄文が横位に施される。61・62は口縁部が外反する深鉢で、61の口唇部には縄文と並行する刺突を施す。63は口唇部に円形刺突を施し、口唇下に円形刺突を持つ隆線を貼付した深鉢口縁部片である。64・65は口唇下に無文帯を持つ深鉢口縁部片で、無文帯の下位に刻目を持つ隆帯を巡らす。66~83は網目状熱糸文が施される深鉢で、72には刺突を施す幅広い隆線が貼付される。84~96は木目状熱糸文が施される深鉢で、84は口唇下を巡る隆帯、86には刺突が施される幅広い隆線が貼付される。97~101は刻目を施す隆帯が巡る深鉢頸部片である。102は口唇部に円形刺突を施し、下位に原体圧痕による文様を施す深鉢口縁部片である。103~105は横位平行沈線と刺突・短沈線を交互多段に施す深鉢である。106は多重沈線を縦位多段に施す深鉢体部片である。107は2条の沈線が口縁沿いに施し、下位に沈線による山形文と並行する刺突を施す。108はS字状連鎖沈文と横位の刺突を施す深鉢である。109は体部が緩やかに膨らむ深鉢で、竹管様施工による2条1組の沈線を口縁に横位3条、下端の横位平行沈線に連結する半円・短懸垂文が施される。110は結節縄文が縦位に施される深鉢で、口縁部から体部上半は欠損する。111は横位平行の交互刺突文と隆線文を施すキャリバー形深鉢で、頸部下にはハの字状に交互刺突文を施す。112は器体中央付近に緩やかな膨らみを持つ長胴の深鉢である。113~117は同一個体の深鉢で、直線的な器形を呈し、口縁部が僅かに外反する。器面には竹管様施工による沈線で幾何学文の文様が描かれる。118・119は深鉢口縁部の突起部で、118は三角、119は弁状を呈する。120・121は横位の多重波状沈線を口縁部に施す深鉢である。122は2条の刺突列を施す隆帯を垂下させ、隆帯より棒状に沈線による平行・鋸歯状文を施す深鉢である。124~125は深鉢口縁部片で、123は横位刺突列、124は斜位の平行沈線を施す。126・127は体部上半が欠損する深鉢で、器面には単節縄文が横位に施される。128は器壁が開く土器で、浅鉢の可能性が考えられる。129は口縁部から体部上半にかけて強い屈曲を持つキャリバー形深鉢である。口縁には突起が付けられていたものと思われ、口唇下には横位平行沈線文、押しによる弧状文、体部には頸部から延びる懸垂文が施される。130は口唇下に不整熱糸文が施される深鉢口縁部片で、胎土には繊維が含まれる。131は口唇部に角状施工による刺突を施し、口縁に沿うように同様の刺突を横位に施す。頸部には2条1組の沈線を波状に施すものである。132は複合口縁下に刺突を施す深鉢口縁部片である。133は深鉢底部で、磨り消された網代痕がみられる。134~137は組紐縄文を施す深鉢体部片で、胎土には繊維を含む。138~141は同一個体の深鉢で、口縁部文様帯は刻目を持つ隆帯によって区切られ、文様帯は沈線による山形文と内部を埋める渦巻文によって構成される。142~144は同一個体の深鉢で、口縁部には斜位の短沈線、体部には単節縄文が縦位に施される。145は横位平行沈線と刺突列が交互多段に施される深鉢口縁部片である。146はレンズ状の隆線と沈線を施す深鉢口縁部片である。147は隆帯に鋸歯状の短沈線を施す深鉢頸部片である。148・149は口縁部に三角刺突文を口唇に沿うように施し、刺突間を短沈線で充填させる。下位には沈線による横位平行線と鋸歯状文を交互多段に施す。150・152は口縁部に短沈線を施す深鉢口縁部片で、151は縦位の平行沈線を密に施し、その上から幾何学文を描く深鉢である。153・154は原体圧痕による円文を施す深鉢口縁部片である。155は口唇下に交互刺突文を横位に施す深鉢口縁部片で、地文に横位の単節縄文が施される。156は口縁部が外反する深鉢で、横位・斜位の原体圧痕が施される。157は弁状突起を持つ深鉢口縁部片で、口縁に沿う原体圧痕、突起中央から垂下する交互刺突文が施される。158は刺突文と結節縄文が施される深鉢口縁部片、159・160は隆線と原体圧痕が施される深鉢体部片である。161・162は同一個体の深鉢で、縦位の隆線間に波状隆線を施す。163は縦位の角状刺突を連続施工するものである。164は深鉢底部で、判然としないが原体圧痕による文様が施される。165~167は同一個体の深鉢で、体部下半は緩やかなカーブを描く。口縁部は隆線によって体部と区切られ、口縁部には多段の原体圧痕が施される。168は口縁部に膨らみを持つキャリバー形深鉢で、隆線による波状文と波状文に沿う原体圧痕が施される。169~175は同一個体の深鉢で、口縁部は波状を呈し突起部には隆線が施される。176~178は同一個体の浅鉢で、緩いカーブを描く

ボール状を呈する。口縁部には2条の原体圧痕が横位2段施される。179は附加条縄文が施される深鉢体部片である。180は沈線による蕨状の文様を左右非対称に描くものである。181は隆線上に原体圧痕を施し、隆線間に三日月状の縄を押し込んだものである。182は口唇下に突起のある隆帯を施す深鉢である。183・184は同一個体の深鉢体部片で、単節縄文を縦位に施す。185は渦巻文を施す突起部で、内面にのみ渦巻文を施す。

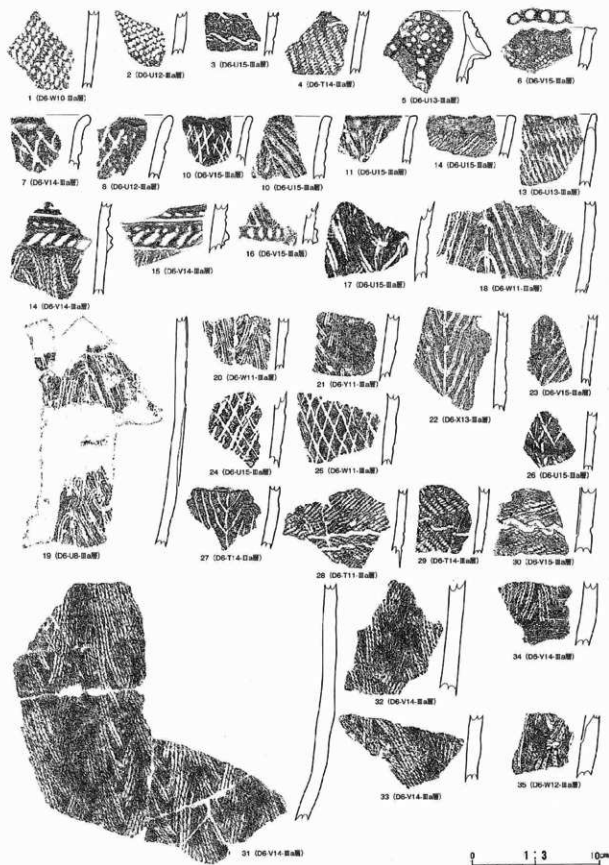
186~235はRAO2型竪穴建物跡及び周囲の掘乱等から出土した土器であるが、縄文時代早期から中期中葉までの土器が含まれているため図示したものである。186は横位の短沈線を横位に、下に刺突を施し文様帯を構成する。文様帯の下部である体部は斜位の条痕が施される。187~192は胎土に織維を含む縄文施文土器で、187は不整摺糸文が横位に施されるものである。193は台形状の突起を持つ深鉢口縁部で、突起頂部及び口唇部に刺突が施され、口縁に沿う隆帯が巡る。194は口縁部がS字状に屈曲し、口唇部に刺突が施される深鉢口縁部で、内外面に縄文が施される。195~198は網目状摺糸文が施される深鉢口縁部で、195には2条の横位平行沈線、196の口唇には指頭状の刻目が施される。194は口縁が外反する深鉢で、単節縄文が横位に施される。200は絡条体圧痕、単節縄文が施される深鉢体部片である。201は刺突を施す隆帯を持つ深鉢である。202は横位に絡条体圧痕文を施す深鉢重部片である。203・204は深鉢口縁部片で、204には角状施文具による交互刺突文が施される。205~209は結束羽状縄文、210は単節縄文が施される深鉢体部片である。211は結節縄文を縦位に施す深鉢体部片である。212~221は網目状摺糸文、222~224は木目状摺糸文、225・226は多軸摺糸文を施す深鉢片である。227は横位に条痕の条痕がみられる深鉢体部片である。226は横位の隆線に施す深鉢口縁部片である。229・230は隆沈線による渦巻文・波状文を施すキャリバー形深鉢口縁部片である。231は隆線による曲線文を施す深鉢体部片である。232~234は隆沈線による渦巻文が施される深鉢体部片である。235は単節縄文が横位に施される深鉢底部である。

(3) 遺物包含層出土石器 (第38図1~第49図101)

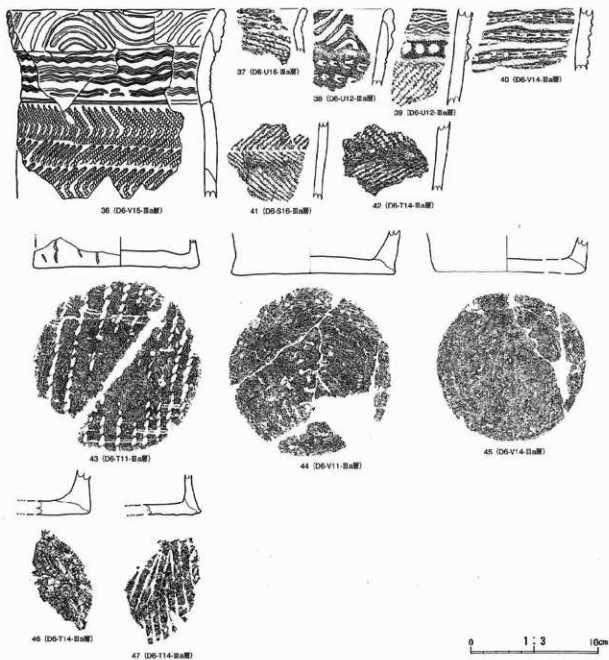
1・2は頁岩製の石鏃で、基部には浅い抉りがある。3は頁岩製の石鏃と考えられる石器であるが、柳葉形の石鏃である可能性もある。4は両面両側縁に連続剥離を施す頁岩製の石鏃である。5・6は頁岩製の両側縁に刃部を持つ削器である。7・9は頁岩製の薄片下端に刃部を持つ搔器である。8は頁岩製の石匙で、つまみ部及び背面全周縁に入念な押圧剥離が施される。10は頁岩による石核で、全周縁から剥離を行う。11は頁岩製の石槍と思われる石器で、先端部に入念な押圧剥離を施す。12~17は頁岩製の石鏃である。12・13は1次剥離面を残す無茎凹基、14・15は平基、16・17は有茎の石鏃である。18~24は頁岩製の削器で、18は背面1側縁、19は両面1側縁、20は背面1側縁・腹面1側縁、21は腹面2側縁、22は背面2側縁・腹面1側縁、23は両面2側縁、24は背面2側縁に刃部を持つ。25は頁岩製の薄片につまみ部を作出させた石匙である。26~28は頁岩製の搔器と思われる石器である。26は腹面下端、27・28は両面下端に刃部調整がみられる。29は頁岩製の、両面に打撃痕がみられる石器である。30はメノウ製の石匙で、全周縁からの整形剥離が施され、刃部は切り出し状に整形される。31は頁岩製の石鏃で、両面からの剥離調整が施される。32は頁岩製の両面加工石器である。33は頁岩製の円形搔器で、打削付近を除く全周縁から入念な剥離が施される。34は頁岩製の石匙で、背面全周縁に整形剥離が施される。35は基部が欠損する頁岩製の石鏃である。36は頁岩製の削器で、腹面2側縁に剥離調整が施される。37は背面左側縁に鋸歯状の抉りが施される。38・39は切り出し状の刃部を持つ頁岩製の削器である。40は甲板状の打撃面を持つ頁岩製の石核である。41・42は頁岩製の石鏃で、41は無茎凹基、42は未製品と思われる。43は頁岩製の削器で、背面左側縁に刃部調整と思われる剥離が施される。44は頁岩製の両面加工石器である。45は輝緑凝灰岩製の石匙で、明瞭なつまみ部を持たない。46~51は側縁に磨面を持つ敲打磨石で、46は砂岩、47は輝緑凝灰岩、48~50は凝灰岩、51は泥岩製で、48・49は断面三角形を呈する。52~91・96・97・99は側縁に打撃を加え、抉りを入れた石鏃である。68・70・76は砂岩、71・85は溶岩質安山岩、78は凝灰岩、82・89は泥岩、その他は輝緑凝灰岩製である。92は砂岩製の石斧で、部分的に磨面がみられる。93は緑白色を呈す滑石片で、縁辺には剥離痕・磨面がみられる。94は粘板岩製の半月形を呈した搔器である。95は凝灰岩と思われる石材による磨石石斧で、刃部は再加工される。98は凝灰岩製の敲石である。100は溶岩質安山岩製の敲石で、欠損後、敲石として利用したものと思われる。101は粘板岩製の両端に剥離がみられる敲石と思われる。

(4) 遺物包含層出土土製品・石製品 (第50図102~107)

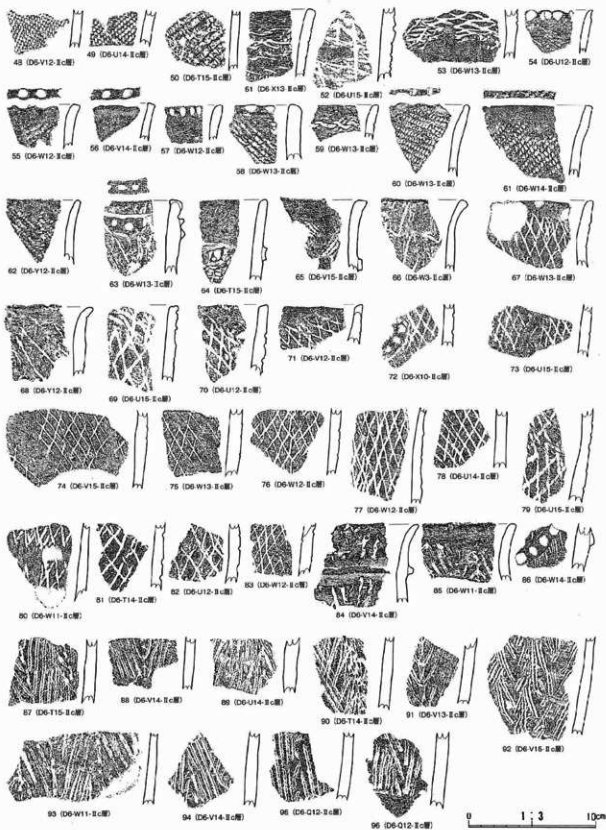
102~104は板状土鍋で、102は胴部から腰部にかけてのくびれを表現し、両面に原体圧痕による文様が施される。103は沈線と刺突による帯状の文様を表面に描き、裏面には沈線による鋸歯状文と渦巻文が描かれる。104は刺突と沈線による文様を描く脚部である。106は滑石製の袂状耳飾である。105は凹みのある円盤状石製品で、107は穿孔された小円盤である。



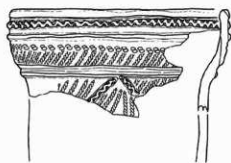
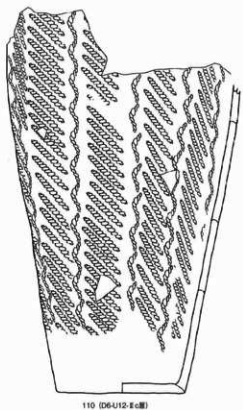
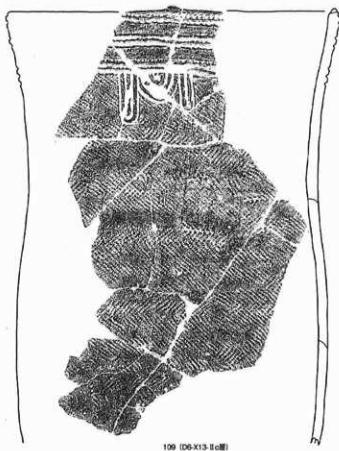
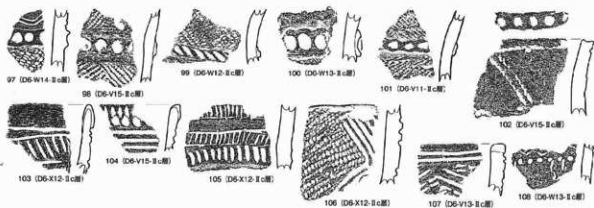
第29圖 遺物包含層出土遺物(1)



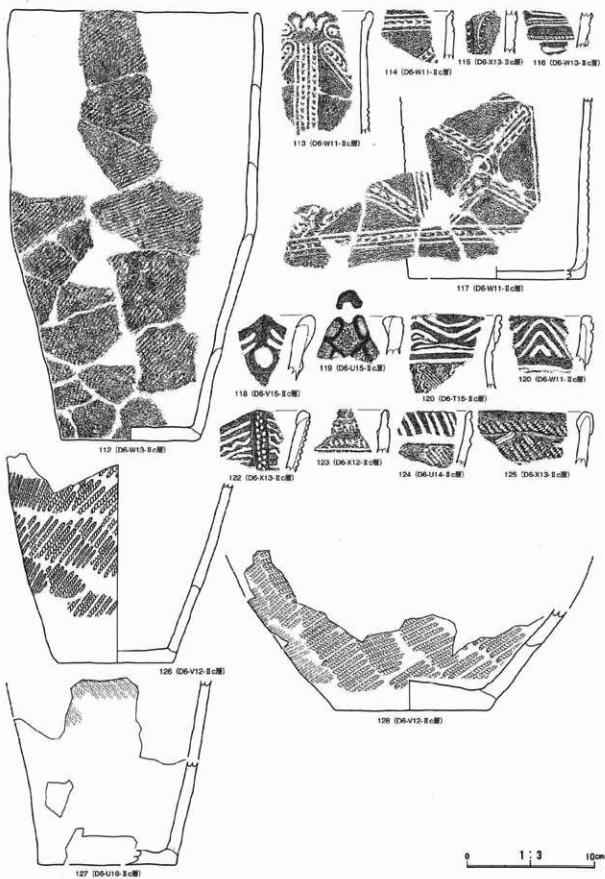
第30圖 遺物包含層出土遺物 (2)



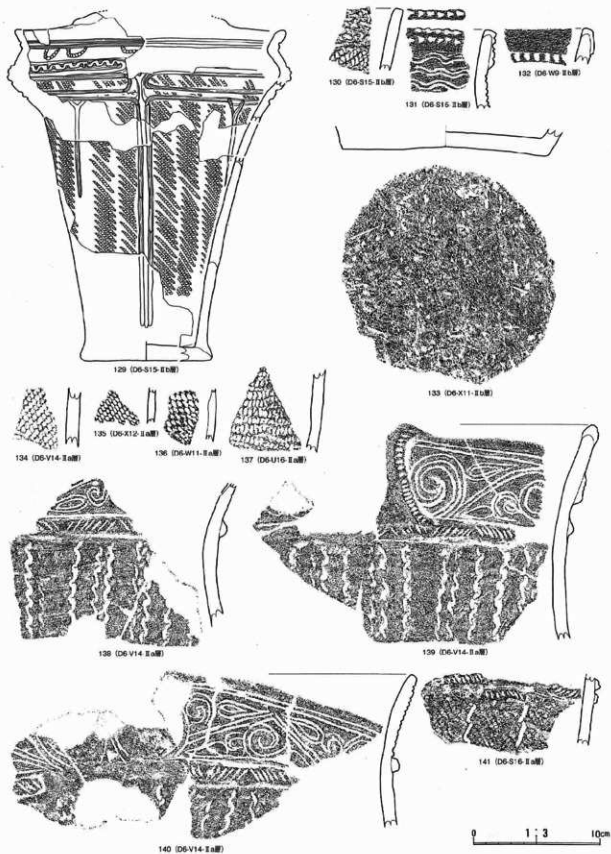
第31圖 遺物包含層出土遺物(3)



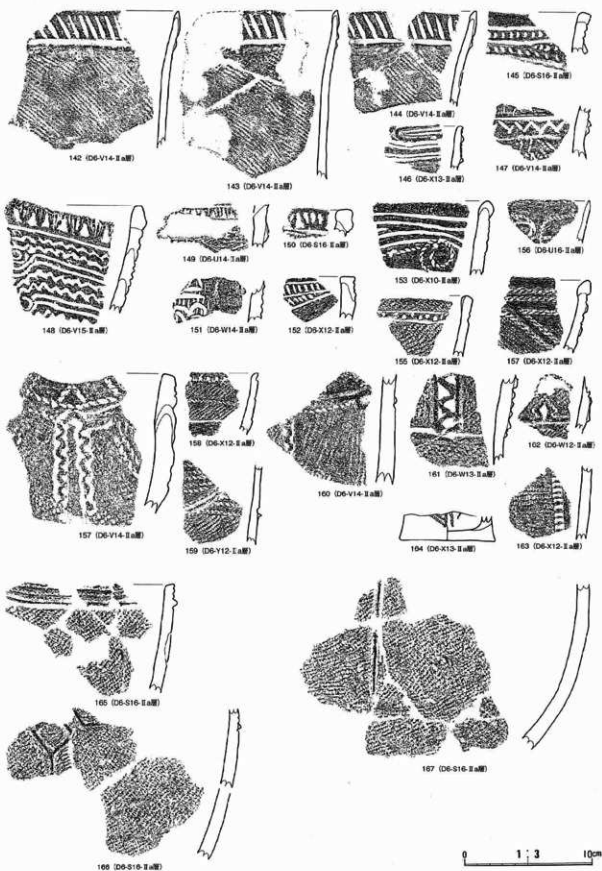
第32圖 遺物包含層出土遺物(4)



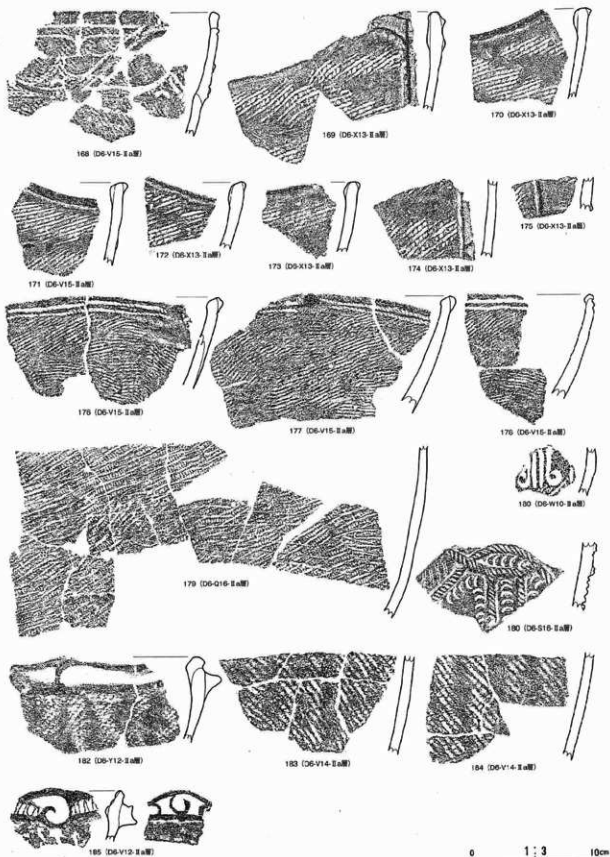
第33圖 遺物包含層出土遺物 (5)



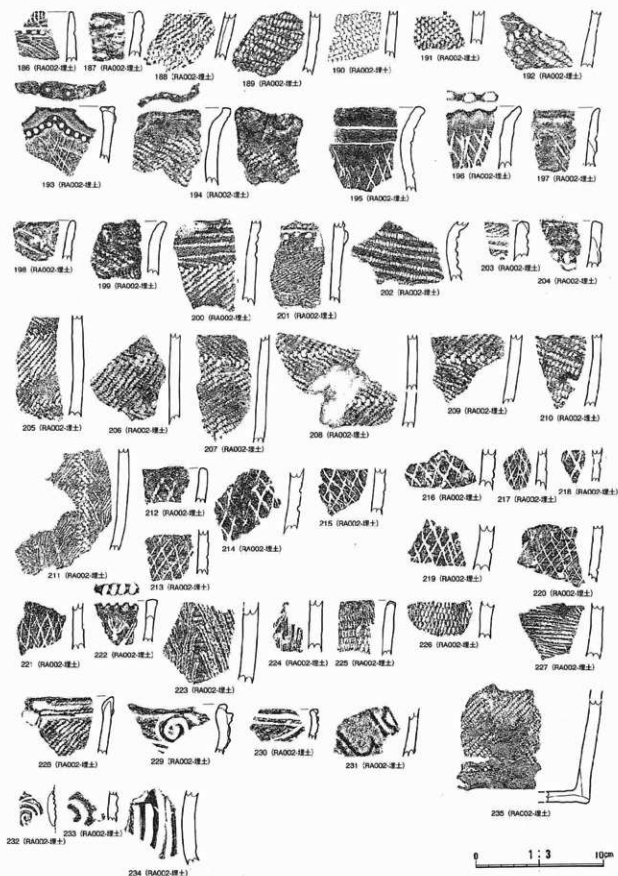
第34図 遺物包含層出土遺物(6)



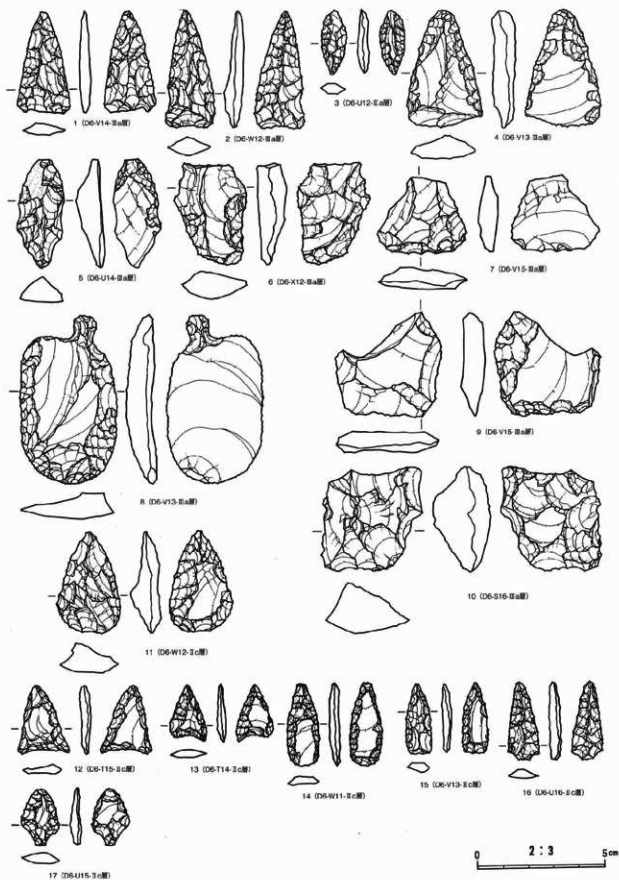
第35圖 遺物包含層出土遺物 (7)



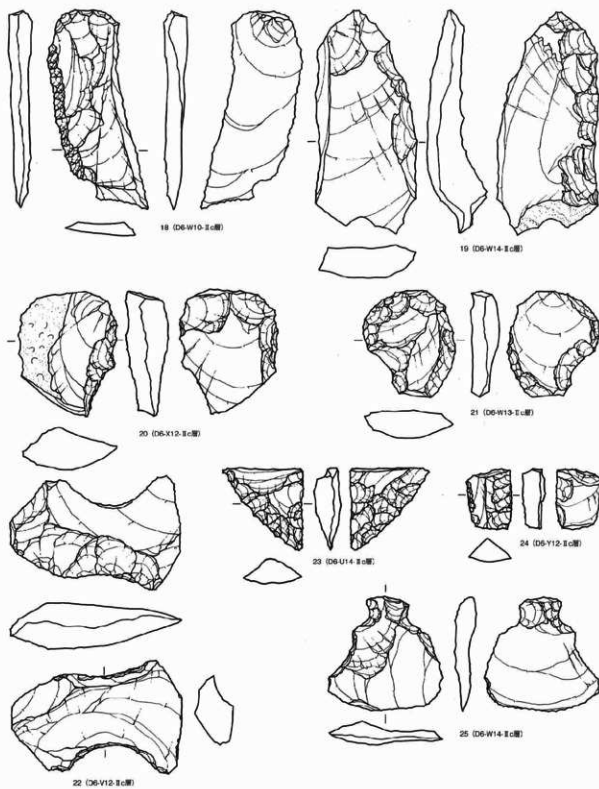
第36圖 遺物包含層出土遺物 (8)



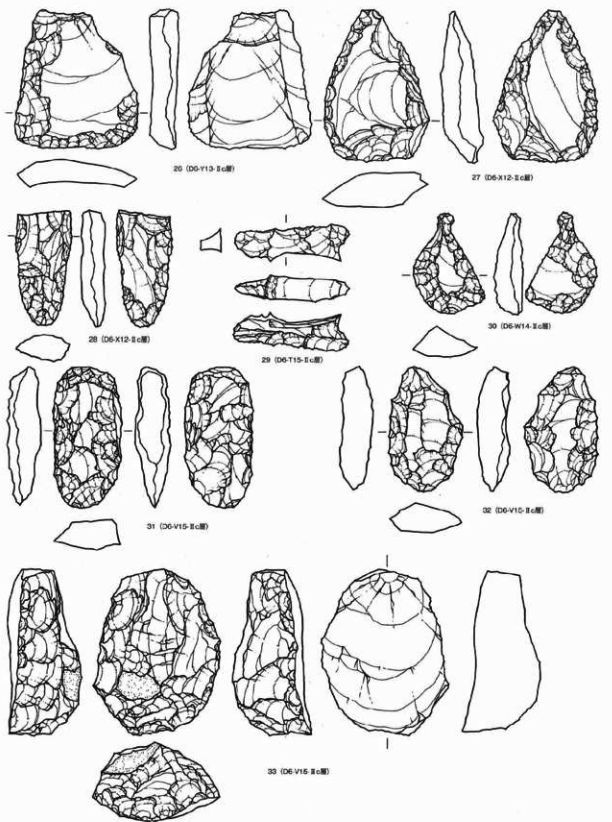
第37図 遺構外出土遺物 (9)



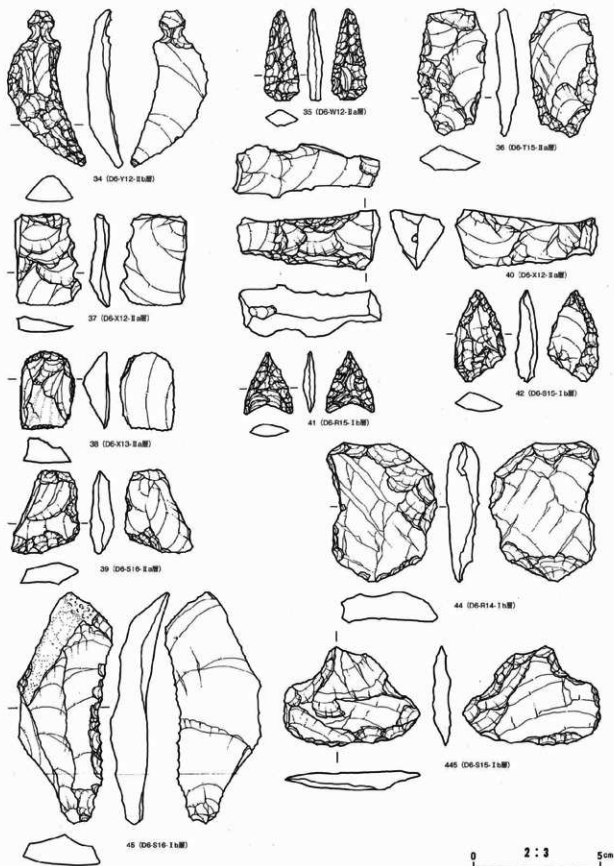
第38図 遺物包含層出土遺物 (10)



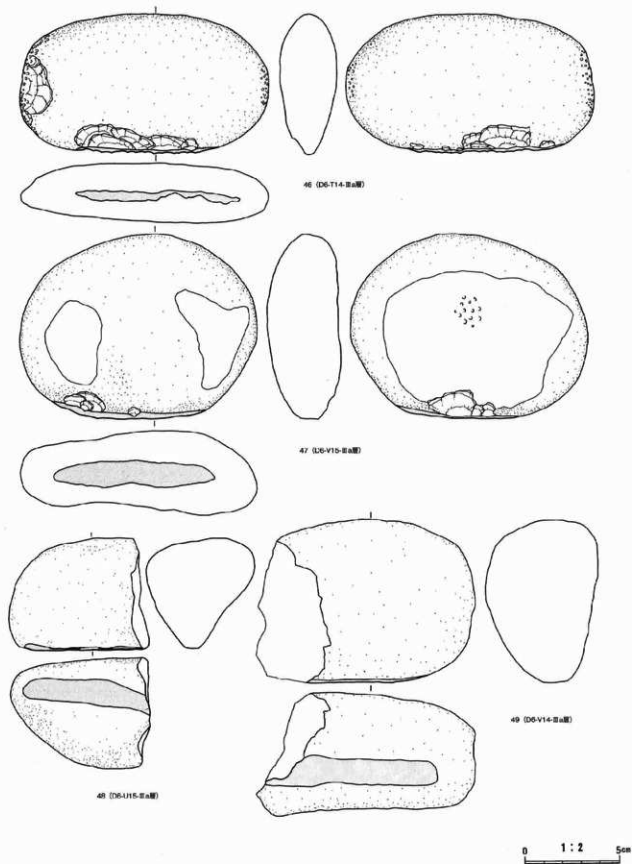
第39圖 遺物包含層出土遺物 (11)



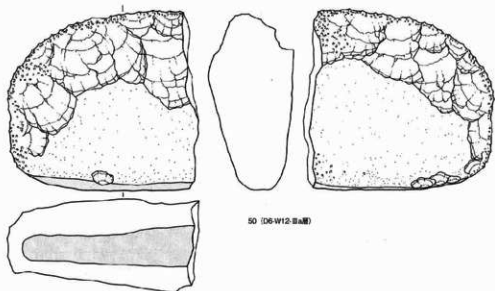
第40図 遺物包含層出土遺物 (12)



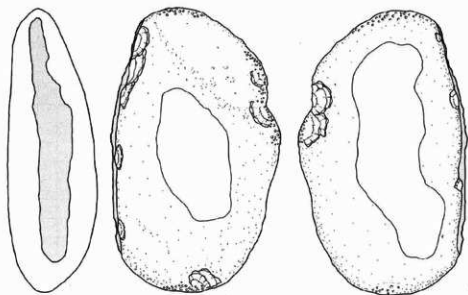
第41図 遺物包含層出土遺物 (13)



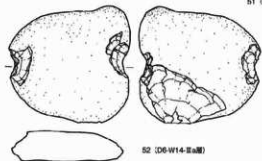
第42図 遺物包含層出土遺物 (14)



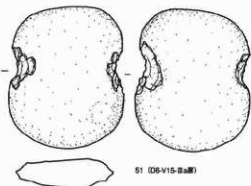
50 (D6-W12-2a)



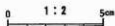
51 (D6-V15-2a)



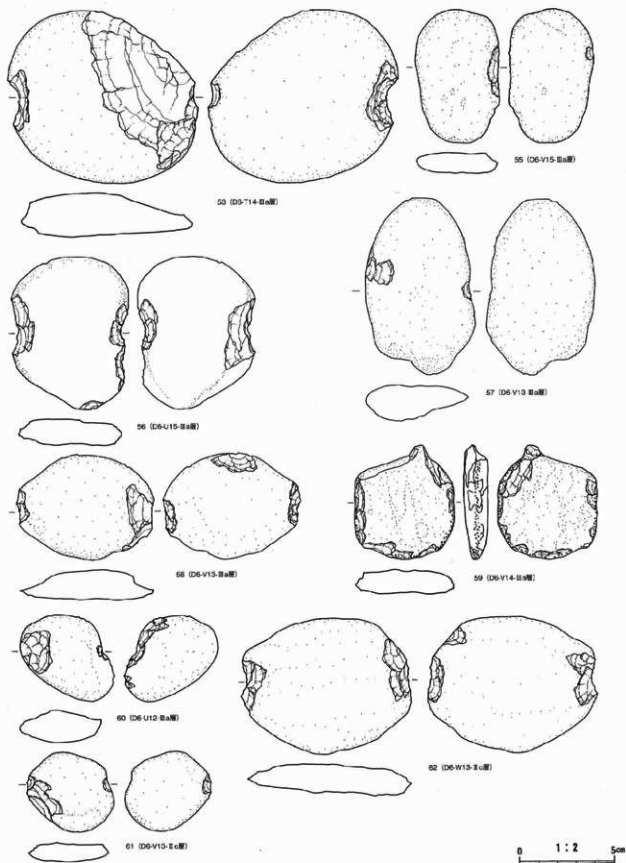
52 (D6-W14-2a)



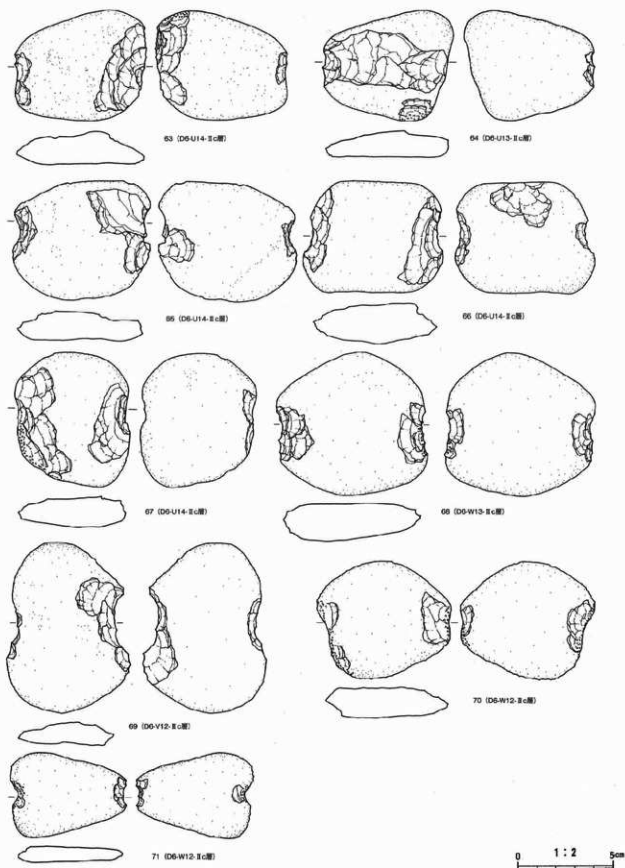
51 (D6-V15-2a)



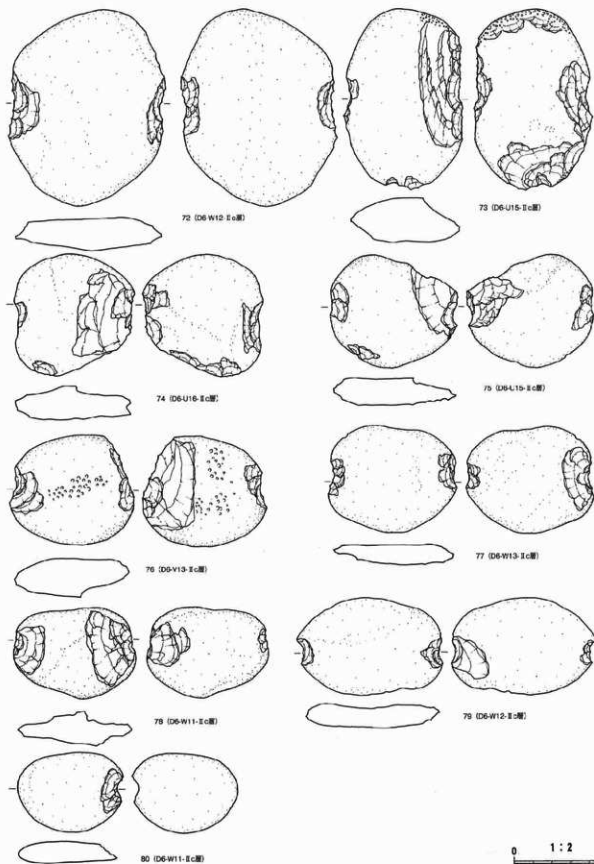
第43図 遺物包含層出土遺物 (15)



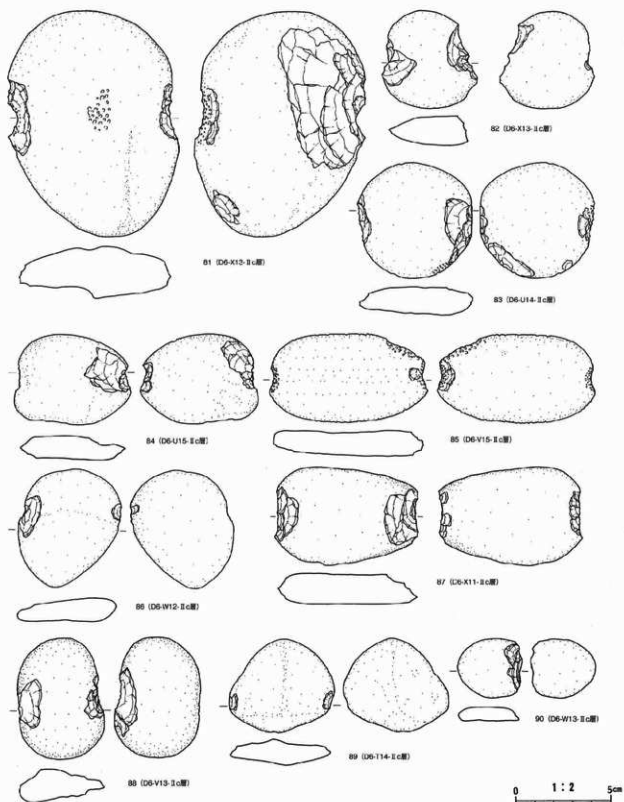
第44図 遺物包含層出土遺物 (16)



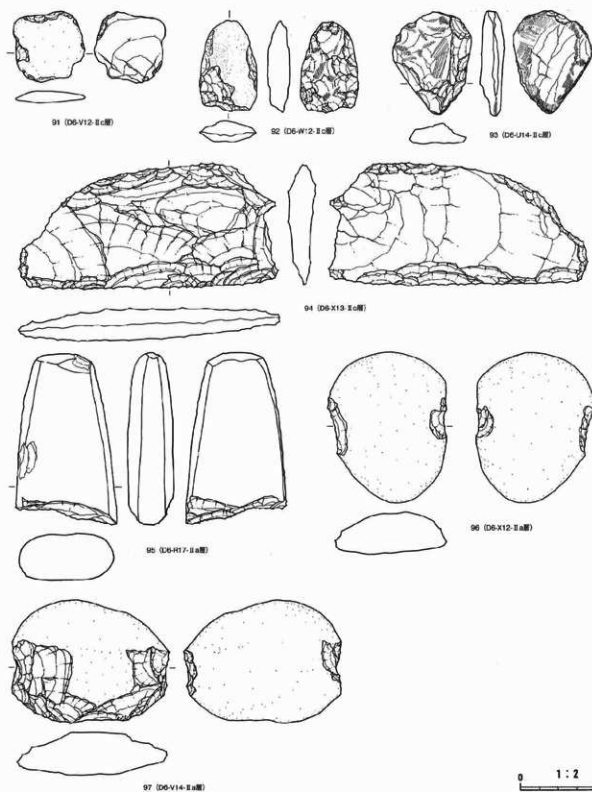
第45図 遺物包含層出土遺物 (17)



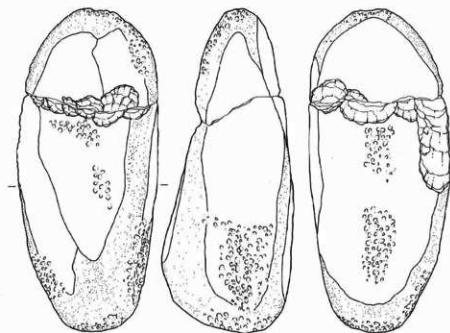
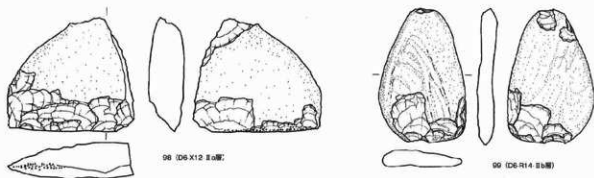
第46図 遺物包含層出土遺物 (18)



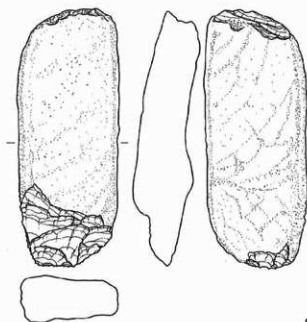
第47図 遺物包含層出土遺物 (19)



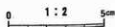
第48図 遺物包含層出土遺物 (20)



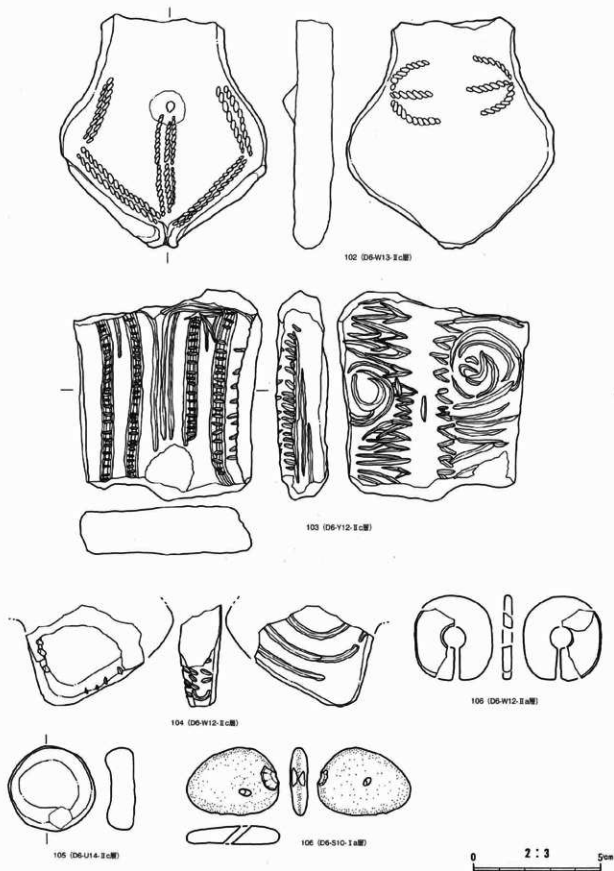
100 (D6-Y12-1b面)



101 (D6-Y12-1a面)



第49図 遺物包含層出土遺物 (21)



第50図 遺物包含層出土遺物 (22)

Ⅲ 総 括

第41次調査 調査の結果、縄文時代前期末葉から中期初頭にかけての竪穴建物跡7棟（R A 0 0 2 竪穴建物跡Ⅰ～Ⅶ期、R A 0 0 3 竪穴建物跡Ⅰ・Ⅱ期）、縄文時代前期から中期中葉にかけての遺物包含層が確認された。

竪穴建物跡 第41次調査において検出された竪穴建物跡は、7棟検出され、炉は全て地床炉によるものであった。構築された時期は、出土した土器から縄文時代前期末葉の大木6式併行期と思われる。R A 0 0 2 竪穴建物跡はⅠ期以降、5期に及ぶ同心円状の拡張が認められたもので、隣接するR A 0 0 3 竪穴建物跡も拡張が認められた。2棟の新旧関係は、掘削の明らからとすることはできなかったが、R A 0 0 3 竪穴建物跡Ⅱ期に堆積する黒褐色土（A・B層）は、R A 0 0 2 竪穴建物跡Ⅶ期のA層に近似しており、R A 0 0 3 竪穴建物跡とR A 0 0 2 竪穴建物跡Ⅶ期が近い年代であることが考えられる。なお、R A 0 0 2 竪穴建物跡Ⅶ期の床面より楕円形を呈した大形礫が出土している。この大形礫は剥離・敲打によって意図的に楕円形にしていることが興味深い。小山遺跡より東に直線距離で3.5kmに上八木田Ⅰ遺跡が所在する。上八木田Ⅰ遺跡は新盛岡競馬場建設に伴い平成3年度に発掘調査が実施され、盛岡市では初めての縄文時代前期後葉を中心とする集落が検出された。検出された縄文時代の竪穴建物跡は166棟で、前期後葉の竪穴建物跡は76棟にも達する。このうち、5棟の床面または床面直上より前述したような楕円形を呈した大形礫が出土したとされる。報告書では「…前期後葉または後葉から末葉に属する住居跡に限られる…」と報告され、検出状況や時期が小山遺跡R A 0 0 2 竪穴建物跡Ⅶ期検出例と共通する内容となっている。小山遺跡において興味深いのは、R A 0 0 2 竪穴建物跡床面より石器No2～4の敲打器が出土していることである。また、床面直上となるC2層からも「磨る」・「潰す」を思わせる石器である敲打磨石（第22図58・59）が出土するなど、大形礫を台石にした敲打を主体とした作業が行われていたことを連想させる。盛岡市内では繫V遺跡などで中期前葉（大木7b式）の竪穴建物跡が検出されているが、ここでも床面より大形礫及び敲打器等が出土しており、時期は異なるが小山遺跡例と同様の意味を持っていた可能性がある。植物を「磨る」・「潰す」などの加工で食糧・製品を生産するのは現在でも行われており、前記した石器が植物加工用と考えるのは容易なことである。

市内において、縄文時代前期後葉の大木6式併行期から中期後葉の大木8b式併行期まで、土器型式が数型式にまたがり、数百年にわたり繰り返して土地を占拠する集落を「長期拠点集落」と呼んでいるが、小山遺跡もそのひとつである。このような集落の発生は、R A 0 0 2 竪穴建物跡から検出された石器類をみるように、植物加工の技術向上が背景にあるものと思われる。

土器 今回の調査では、縄文時代早期中葉から中期末葉にかけての土器が出土し、特に前期後葉（大木6式）の土器がR A 0 0 2 竪穴建物跡床面より出土したことが注目される。盛岡市内における大木6式併行期の土器は繫V遺跡・上平遺跡・大館町遺跡・小島沢B遺跡・畑井野遺跡・上八木田Ⅰ遺跡・川目C遺跡より出土しているが、竪穴建物など遺構に伴う例は小島沢B遺跡（未報告）・上八木田Ⅰ遺跡など僅かである。当時の土器組成を考える上で、単時期の一括性を示す床面上上の土器は重要で、種類の増加によって前期末葉の土器組成が次第に明らかになることであろう。また、遺物包含層中より前期後葉の大木5式併行期の土器（第29図5～35、第31図54～第32図102、第37図193～226）が出土している。流れ込みの遺物ではあるが、調査区周辺に当該期の遺構が分布している可能性が考えられる。

石器 小山遺跡は以前から、扁平小円礫の縁込に挟み入れた「石錘」が数多く採集されることで有名であった。今回の調査によって実際に多くの石錘が製作されていたことが明らかにされた。R A 0 0 2 竪穴建物跡Ⅶ期の例では、埋土・床面における石器総数は167点を数える。剥片石器及び剥片は79点（47%）であることに対し、礫石器の総数は88点を数え全体の約53%を占める。石錘は内33点で全体の約20%を占めるなど、多量の礫石器の中でも際立った量といえよう。一般的に石錘は漁撈に関連する石器と考えられてきたが、多量に出土する石錘が漁撈のみとは考えにくい。今後、使用痕の分析などをとおして石錘の使用法について研究する必要がある。

小山遺跡は今回までに41次にわたる調査を実施してきたが、遺跡の中心部やその隣接地については未調査であり、どのような遺跡なのか不明な状況であった。しかし、今回の本格的な発掘調査によって遺跡の年代や遺構分布状況の一端が明らかにされたことは、小山遺跡の実態を知る上で重要な結果を得ることになった。これまで表面採集された遺物や記録などで、大規模な縄文時代中期の集落遺跡であることが推測されてきたが、今回の調査によって小山遺跡は縄文時代早期から始まり、縄文時代前期から確実な集落が営まれていたことが明らかになった。市内の長期拠点集落でも前期から中期まで継続していた例はなく、今回の調査により、縄文時

代の集落発展過程を知る上で重要な遺跡であることが確認された。

参考文献

- 盛岡市史編纂委員会（1958）「盛岡市史－第1分冊－」岩手県盛岡市
- 江坂輝彌（1970）「石神遺跡」ニューサイエンス社
- 武田幹男（1978）「大館町遺跡－昭和51年度発掘調査報告－」盛岡市教育委員会
- 山内清男（1979）「日本先史土器の縄紋」先史考古学会
- 八木光則 他（1982）「大館遺跡群－昭和56年度発掘調査概報－」盛岡市教育委員会
- 千田和文（1985）「大館遺跡群－昭和59年度発掘調査概報－」岩手県盛岡市教育委員会
- 千田和文（1989）「小山遺跡群－昭和63年度発掘調査概報－」岩手県盛岡市教育委員会
- 岩手県立博物館（1993）「じょうもん発信」（財）岩手県文化振興事業団
- 似内啓邦・神原雄一郎 他（1995）「上平遺跡群－平成4・5年度発掘調査概報－」盛岡市教育委員会
- 八木光則（1995）「小屋塚遺跡－第1～27次発掘調査報告」岩手県盛岡市教育委員会
- 千葉孝雄（1995）「上八木田Ⅰ遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第227集
- 阿部豊（1999）「千鶴Ⅳ遺跡－宮古市水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係－」岩手県宮古市教育委員会
- 岩手県立博物館（2005）「縄文北緯40°～前・中期の北東北～」（財）岩手県文化振興事業団
- 早瀬亮介・菅野智則・須藤 隆（2006）「東北大学文学研究科考古学陳列館所蔵大木囲貝塚出土基準資料－山内清男編年基準資料－」東北大学総合学術博物館
- 神原雄一郎 他（2008）「柿ノ木平遺跡 堰根遺跡－浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ－」盛岡市教育委員会
- 星雅之・菅野紀子（2009）「川日A遺跡第6次発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第525集
- 佐々木亮二 他（2013）「盛岡市内遺跡群－平成22・23年度発掘調査報告」岩手県盛岡市教育委員会
- 佐々木紀子・神原雄一郎（2013）「繁V遺跡－繁小学校校舎等増改築工事事業に伴う発掘調査報告書－」盛岡市教育委員会

写真図版



小山遺跡遠景（西から）



調査前全景（南東から）

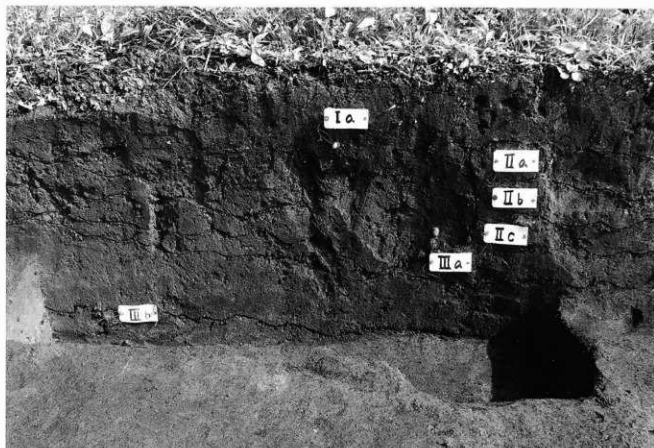
第2図版



第41次調査区全景（北東から）



第41次調査区全景（南東から）



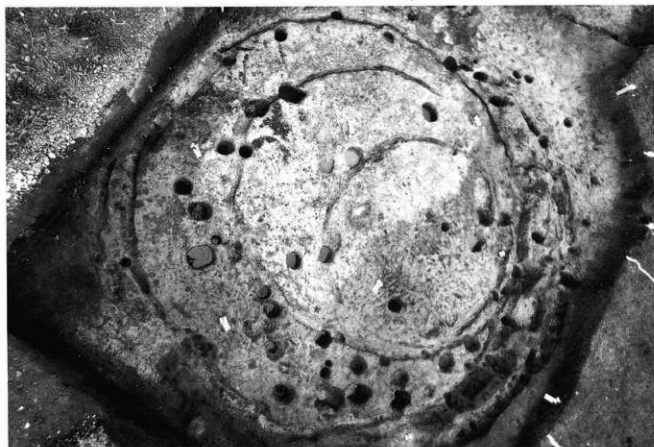
調査区基本土層堆積状況



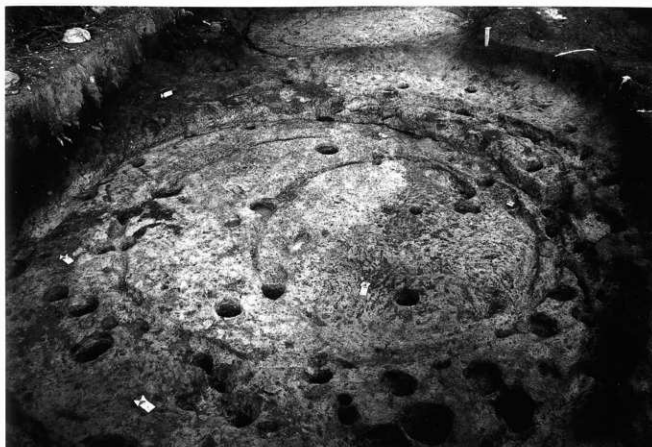
調査区南東部土層堆積状況



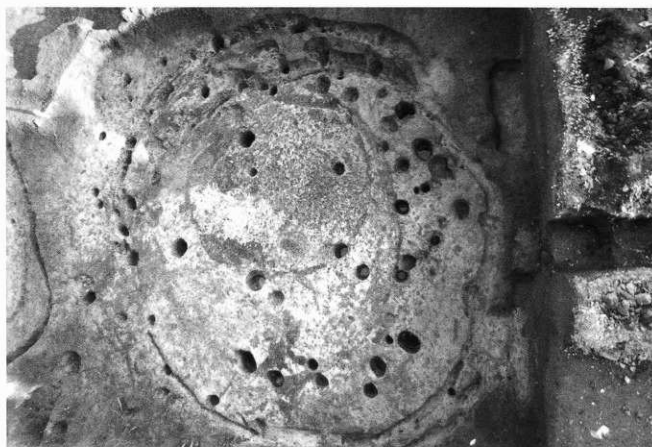
RA 002・003罌穴建物跡全景（北東から）



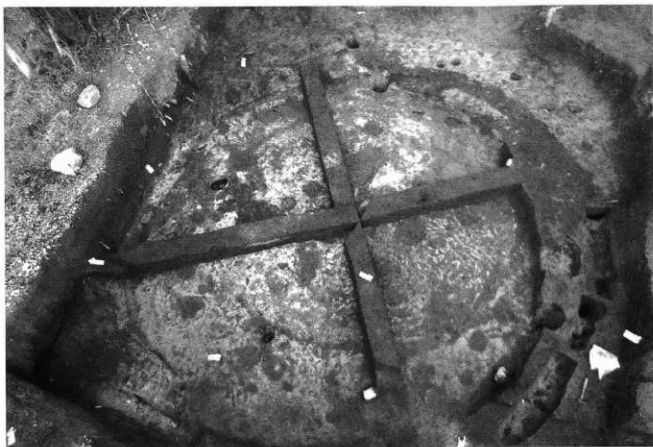
RA 002罌穴建物跡全景（南から）



RA002竪穴建物跡Ⅰ・Ⅱ期全景（南西から）



RA002竪穴建物跡Ⅲ～Ⅴ期全景（北西から）



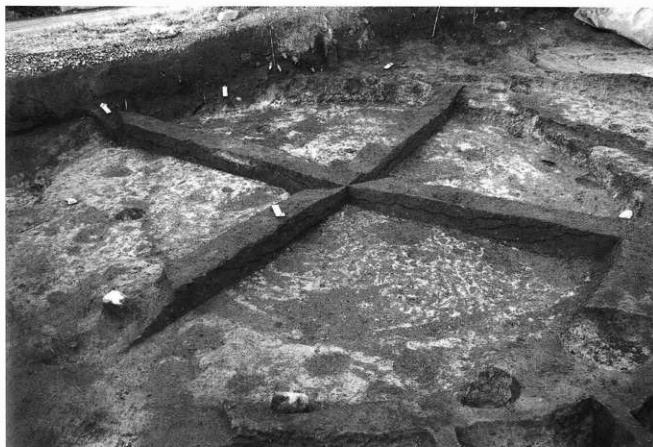
RA002竪穴建物跡Ⅰ～Ⅲ期検出状況(南から)



RA002竪穴建物跡Ⅳ期検出状況(南西から)

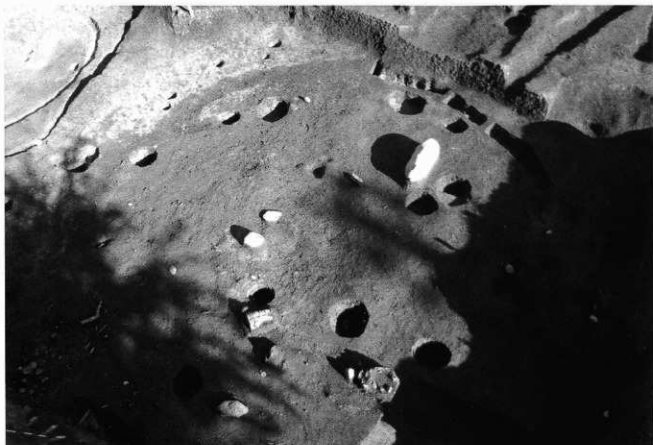


R A 002竪穴建物跡Ⅳ期全景（西から）



R A 002竪穴建物跡Ⅳ期埋土堆積状況

第8図版



RA002竪穴建物跡V期全景(西から)



RA002竪穴建物跡V期埋土堆積状況



R A 002豎穴建物跡Ⅴ期地床炉検出状況



R A 002豎穴建物跡Ⅴ期地床炉半截状況



R A 002豎穴建物跡V期遺物出土狀況 (1)



R A 002豎穴建物跡V期遺物出土狀況 (2)



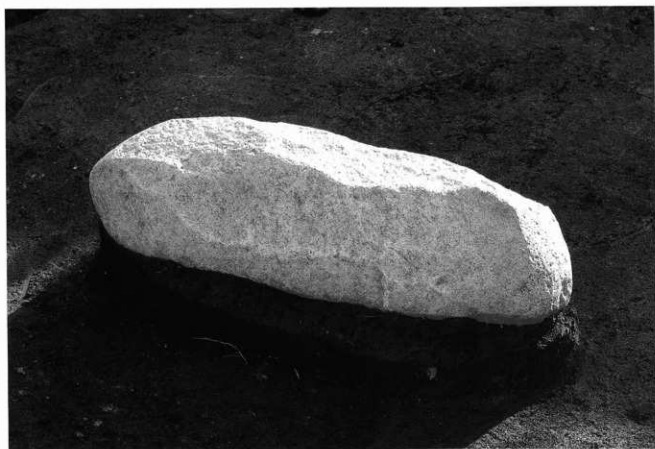
R A 002 豎穴建物跡 V 期遺物出土狀況 (3)



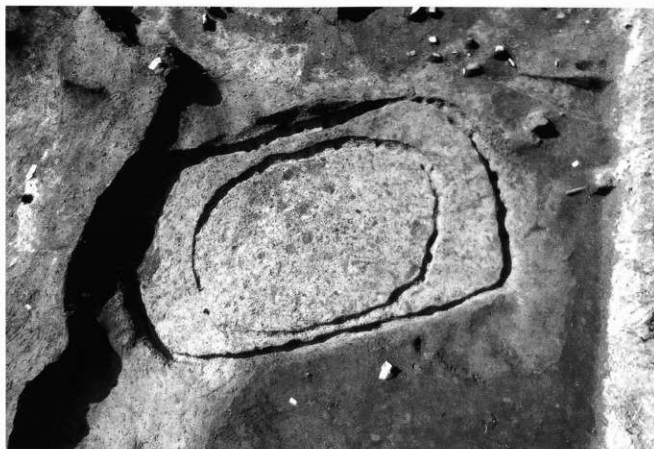
R A 002 豎穴建物跡 V 期遺物出土狀況 (4)



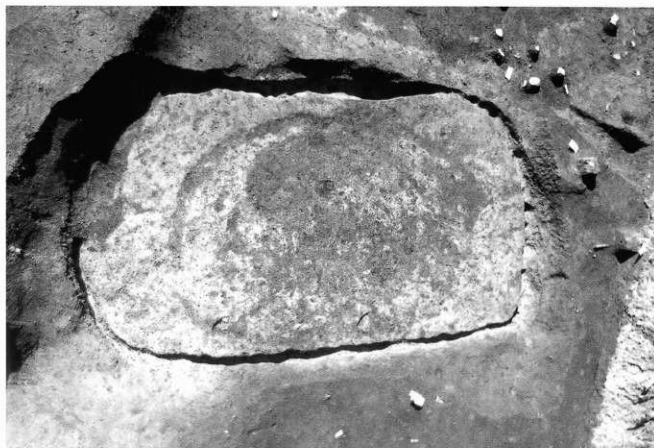
RA002雙穴建物跡V期遺物出土狀況(5)



RA002雙穴建物跡V期遺物出土狀況(6)



RA 003竪穴建物跡Ⅰ・Ⅱ期全景（北東から）



RA 003竪穴建物跡Ⅰ期検出状況（北東から）



RA003竪穴建物跡Ⅰ期埋土堆積状況



RA003竪穴建物跡Ⅱ期検出状況（南東から）



R A 003竪穴建物跡Ⅱ期埋土堆積状況



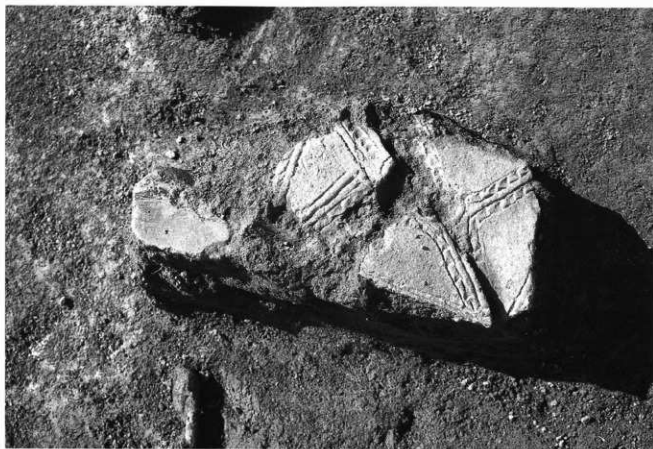
R A 003竪穴建物跡Ⅱ期周溝埋土堆積状況



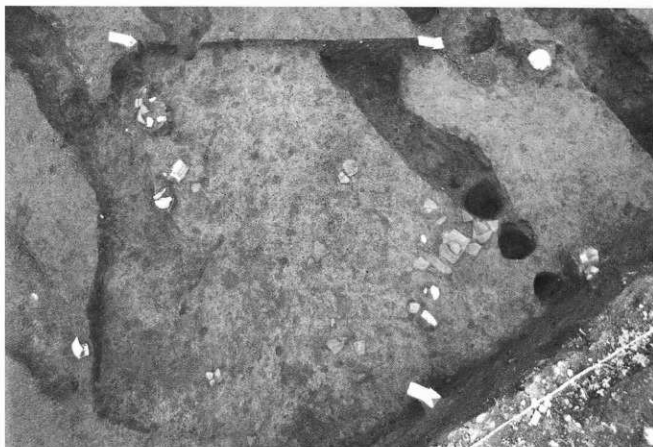
遺物包含層全景（北東から）



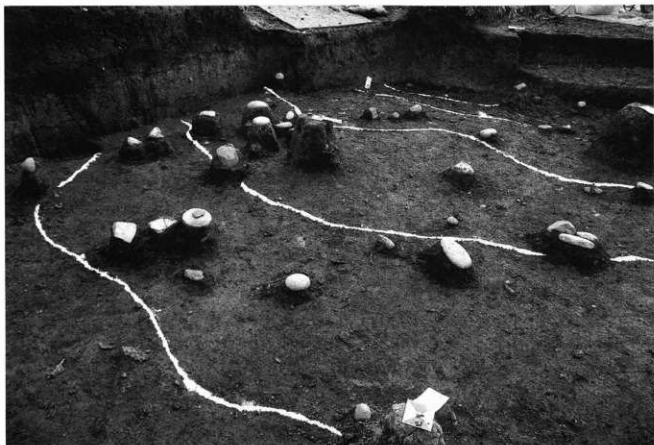
遺物包含層遺物出土状況（1）



遺物包含層遺物出土状況 (2)



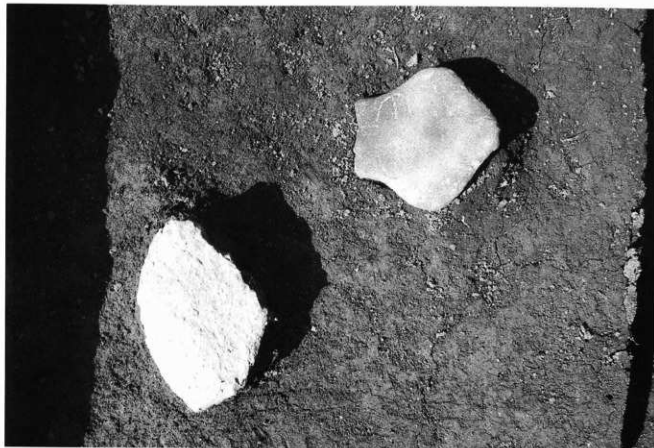
遺物包含層遺物出土状況 (3)



遺物包含層遺物出土狀況 (4)



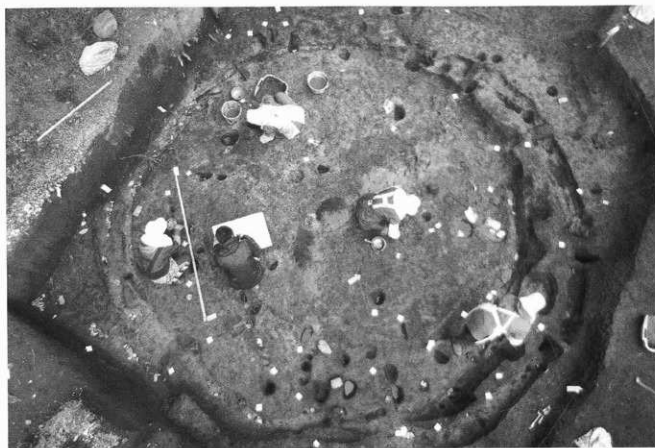
遺物包含層遺物出土狀況 (5)



遺物包含層遺物出土状況(6)



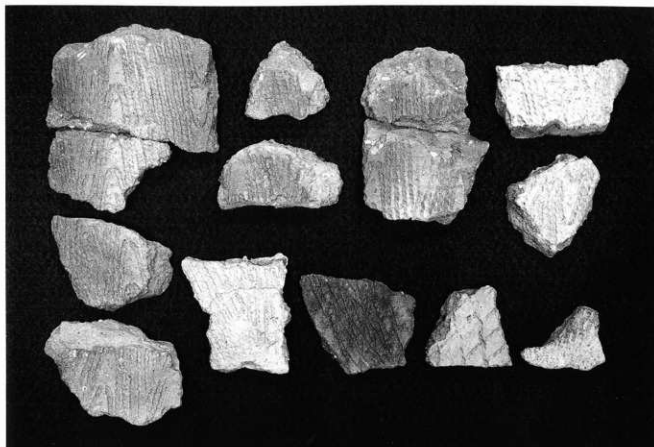
遺構検出作業風景(北東から)



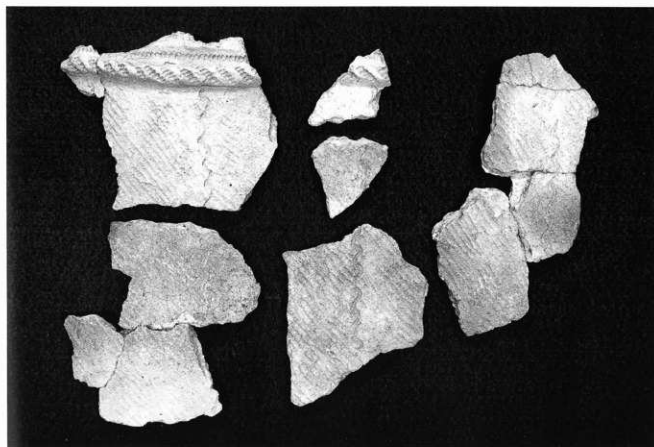
調査風景 (南から)



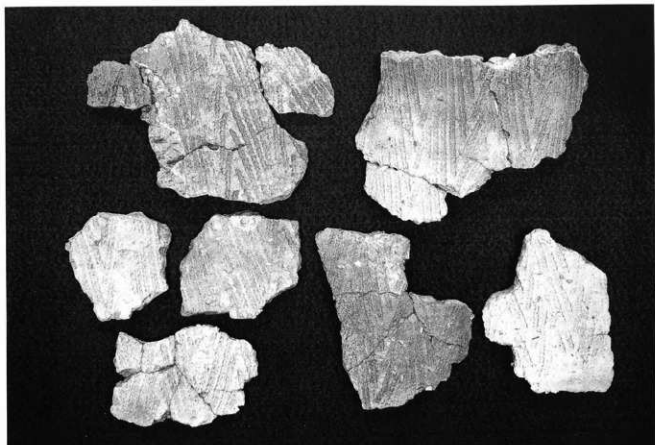
調査終了後風景 (南西から)



RA 002 豎穴建物跡 IV期 (1)



RA 002 豎穴建物跡 IV期 (2)



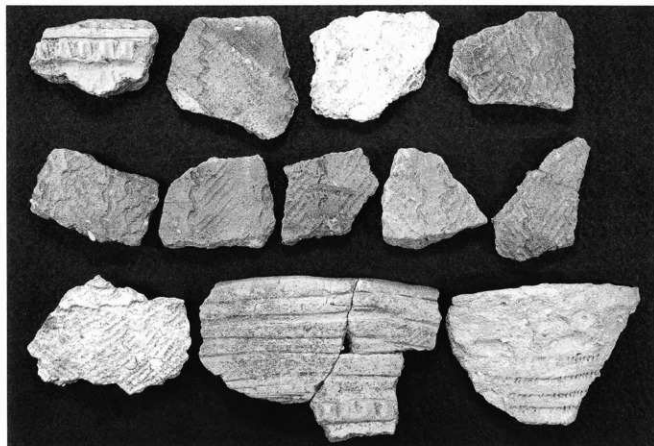
RA 002 豎穴建物跡 IV期 (3)



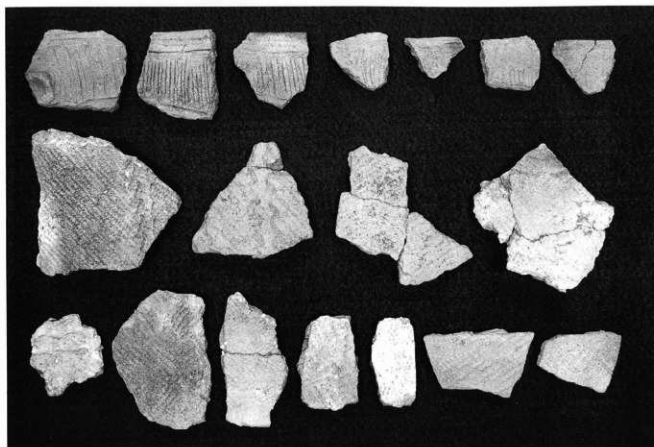
RA 002 豎穴建物跡 IV期 (4)



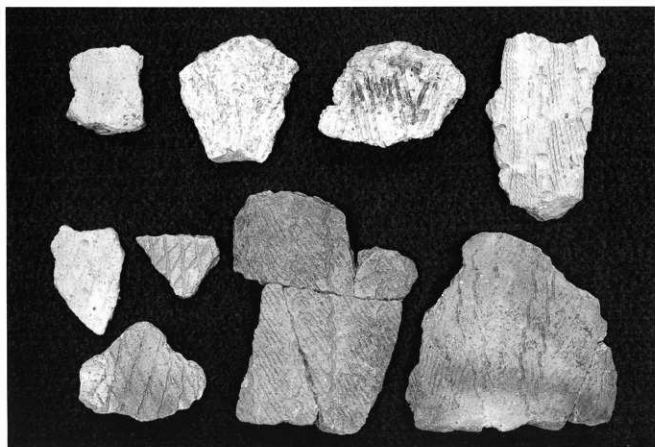
RA 002 豎穴建物跡 V期 (1)



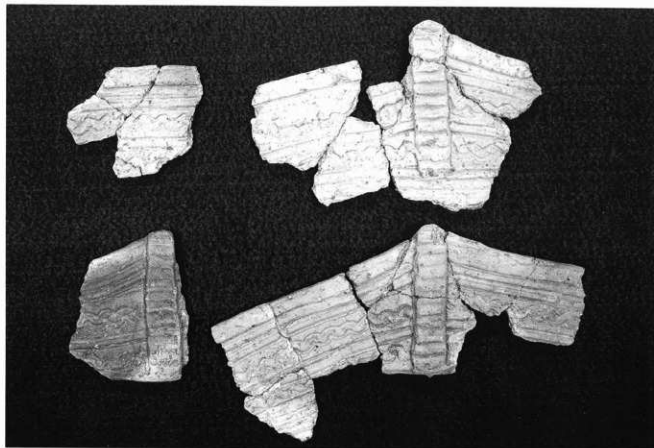
RA 002 豎穴建物跡 V期 (2)



RA 002 豎穴建物跡 V期 (3)



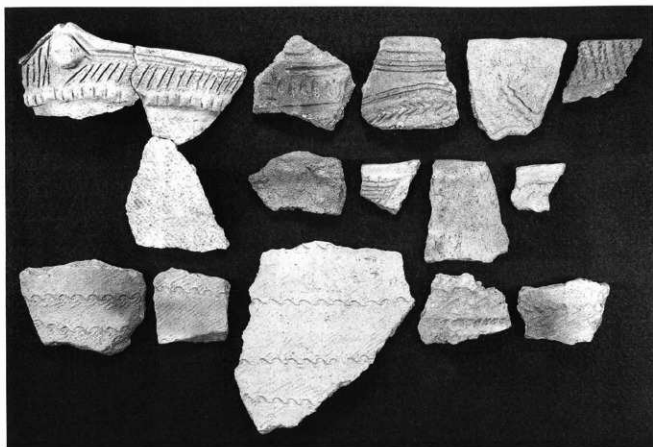
RA 002 豎穴建物跡 V期 (4)



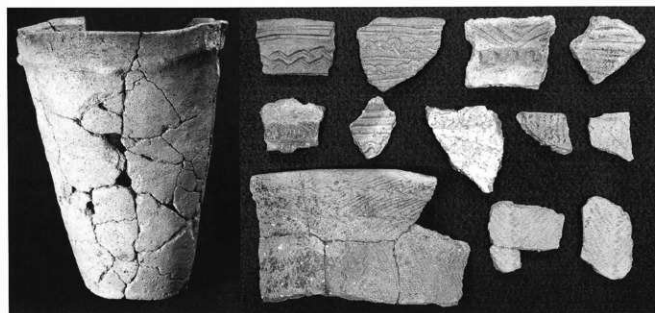
RA 002 豎穴建物跡 V期 (5)



RA 002 豎穴建物跡 V期 (6)



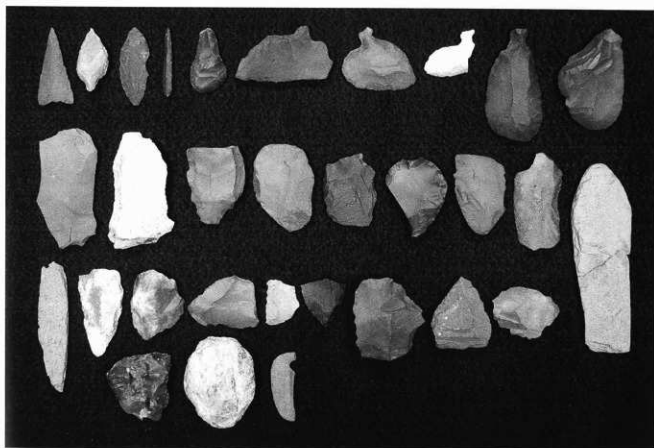
RA 002 豎穴建物跡 V期 (7)



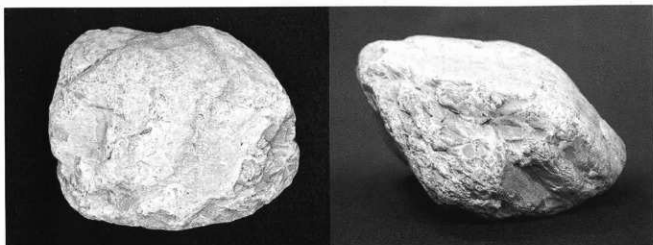
RA 002 豎穴建物跡 V期 (8)



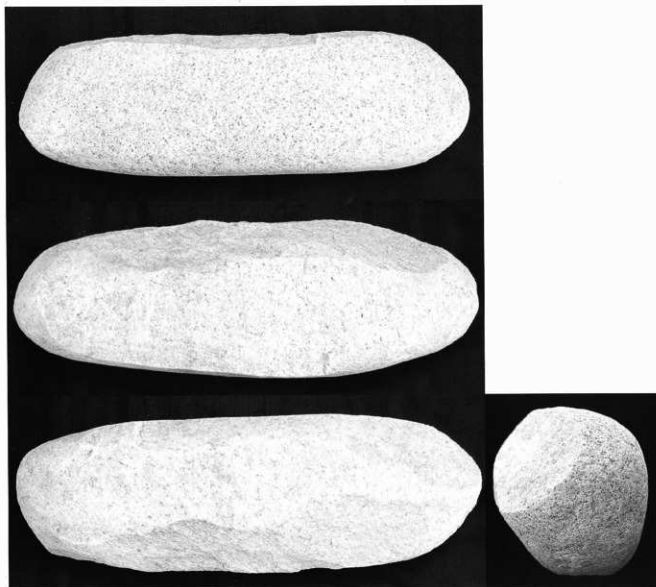
RA 002 豎穴建物跡 V期 (9)



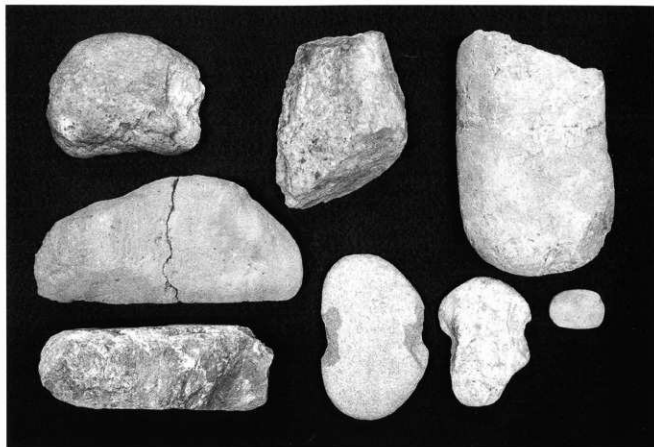
RA 002 豎穴建物跡 V期 (10)



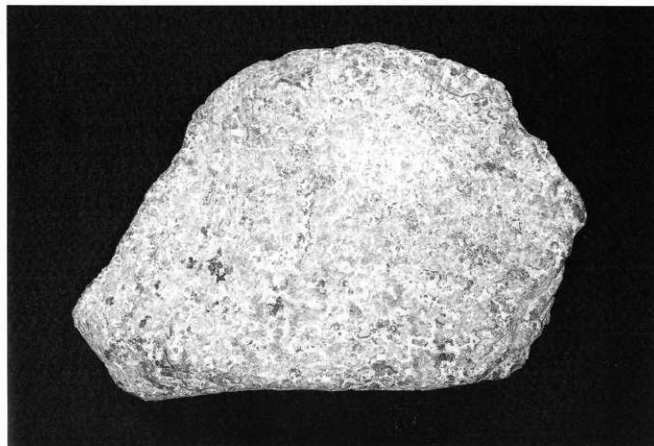
R A 002 豎穴建物跡 V期 床面 石器No.1 自然礫 (11)



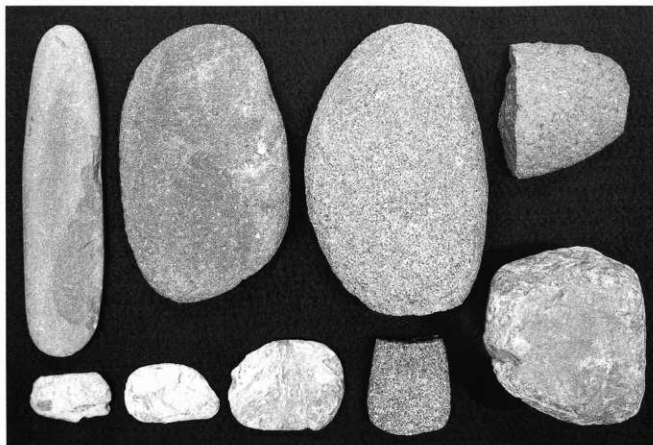
R A 002 豎穴建物跡 V期 (12)



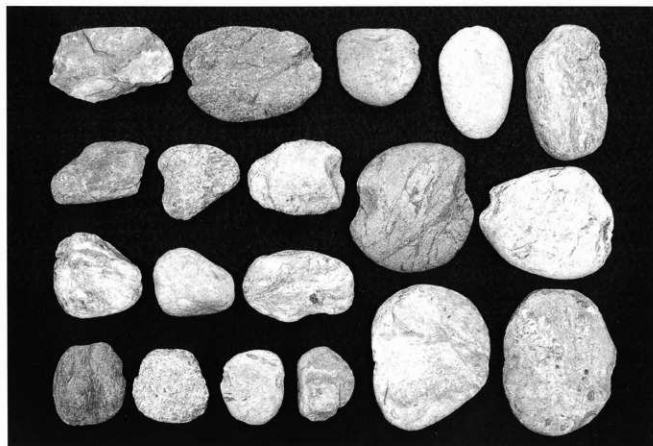
RA 002 豎穴建物跡 V期 (13)



RA 002 豎穴建物跡 V期 (14)



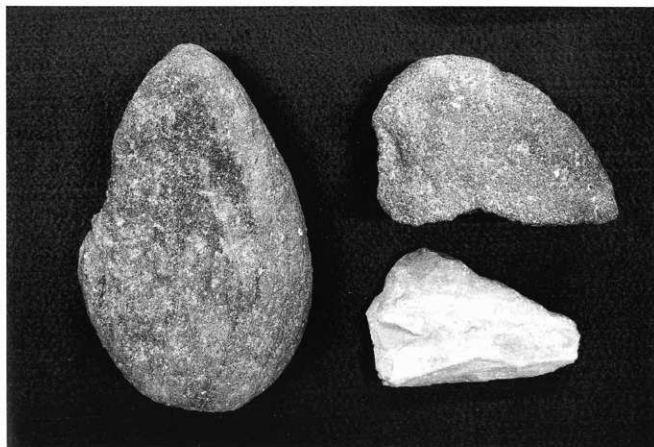
RA 002 竪穴建物跡 V期 (15)



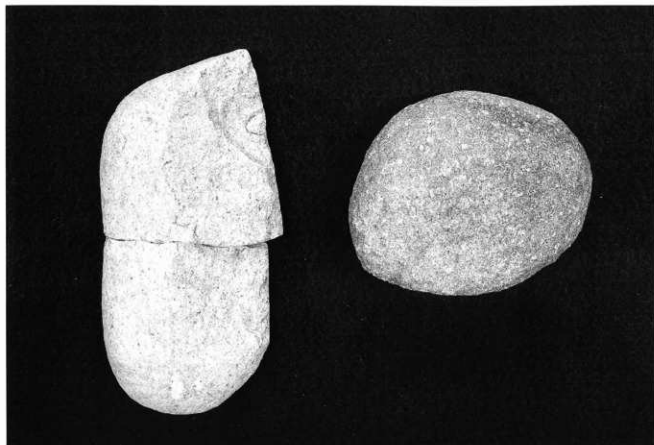
RA 002 竪穴建物跡 V期 (16)



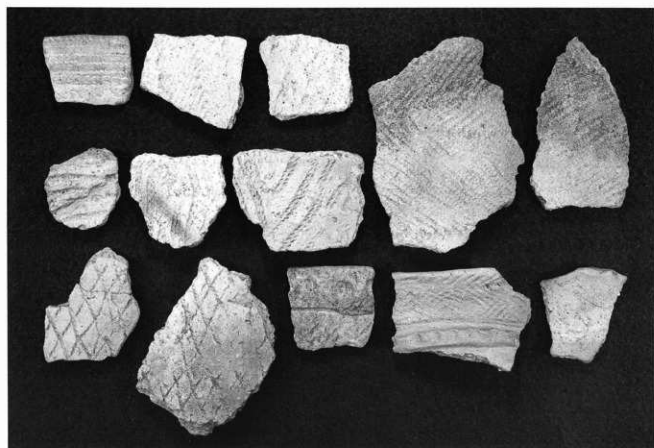
RA 002 竖穴建物跡 V期 (17)



RA 002 竖穴建物跡 V期 (18)



RA 002 豎穴建物跡 V期 (19)



RA 003 豎穴建物跡 (1)



RA 003 豎穴建物跡 (2)



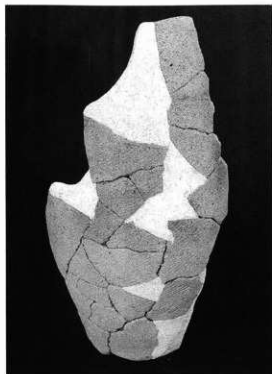
遺物包含層出土遺物 (1)



遺物包含層出土遺物 (2)



遺物包含層出土遺物 (3)



遺物包含層出土遺物 (4)



遺物包含層出土遺物 (5)



遺物包含層出土遺物 (6)



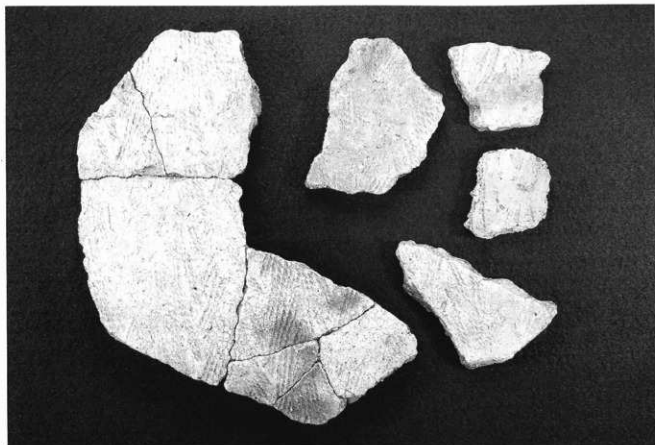
遺物包含層出土遺物 (7)



遺物包含層出土遺物 (8)



遺物包含層出土遺物 (9)



遺物包含層出土遺物 (10)



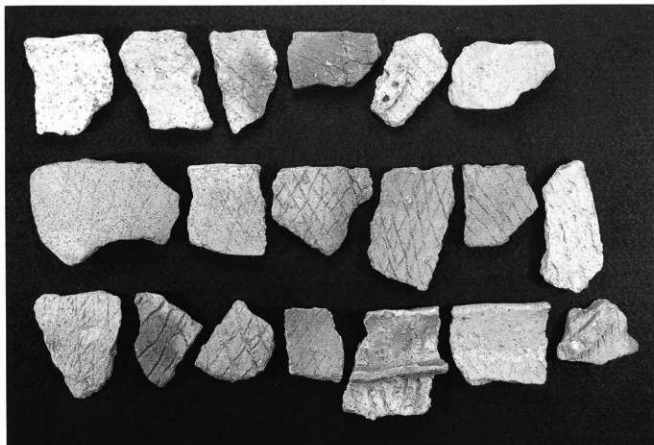
遺物包含層出土遺物 (11)



遺物包含層出土遺物 (12)



遺物包含層出土遺物 (13)



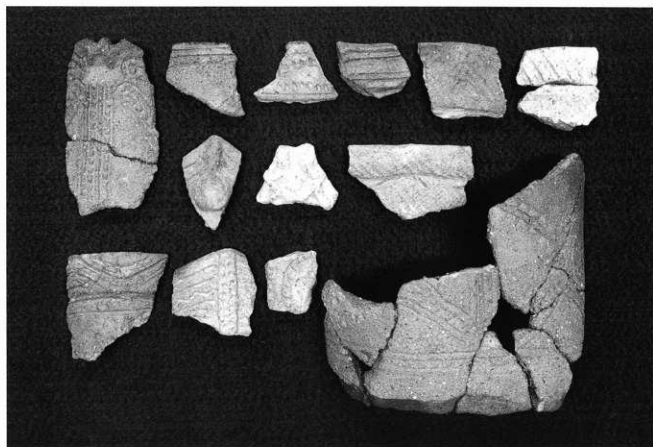
遺物包含層出土遺物 (14)



遺物包含層出土遺物 (15)



遺物包含層出土遺物 (16)



遺物包含層出土遺物 (17)



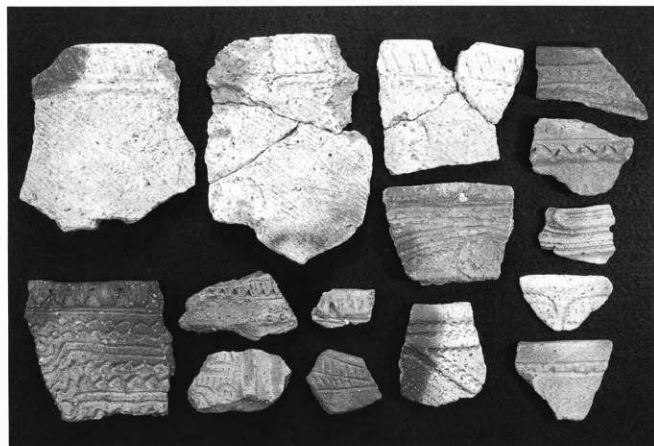
遺物包含層出土遺物 (18)



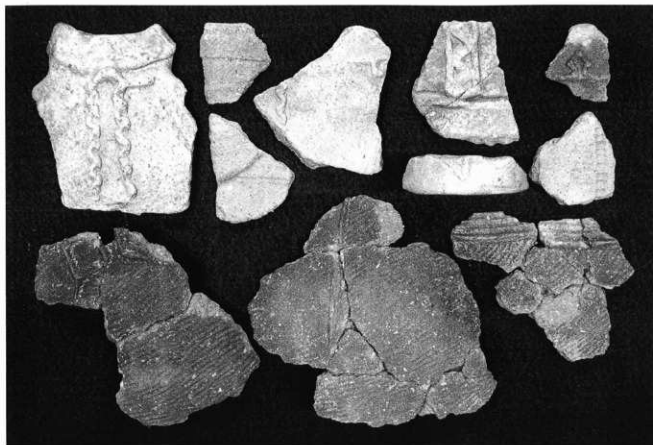
遺物包含層出土遺物 (19)



遺物包含層出土遺物 (20)



遺物包含層出土遺物 (21)



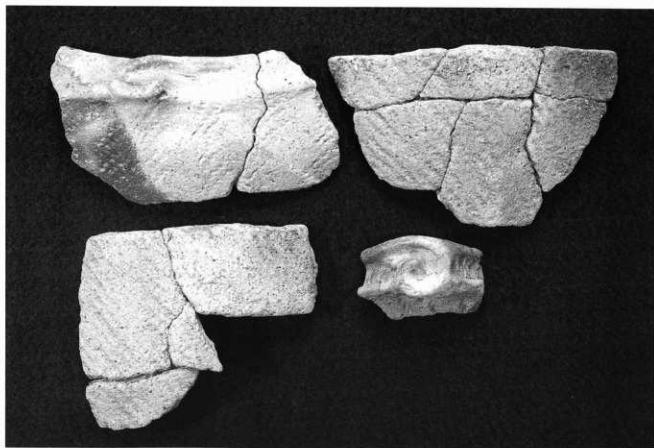
遺物包含層出土遺物 (22)



遺物包含層出土遺物 (23)



遺物包含層出土遺物 (24)



遺物包含層出土遺物 (25)



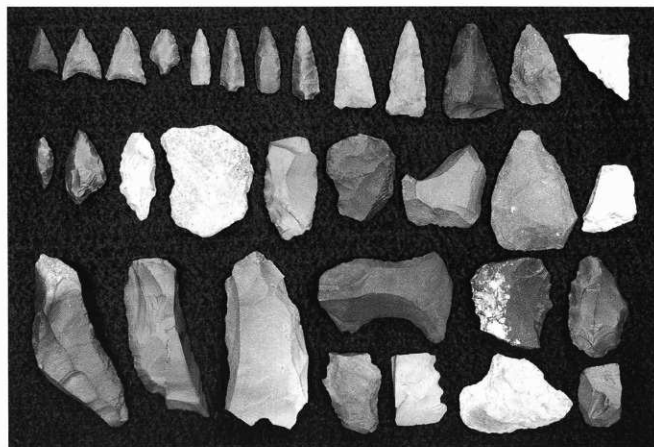
遺物包含層出土遺物 (26)



遺物包含層出土遺物 (27)



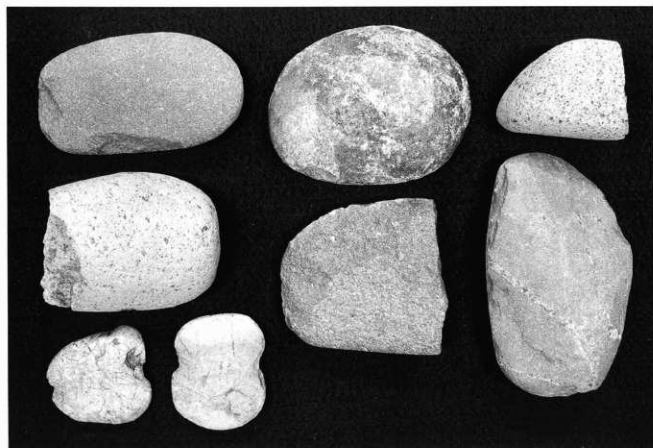
遺物包含層出土遺物 (28)



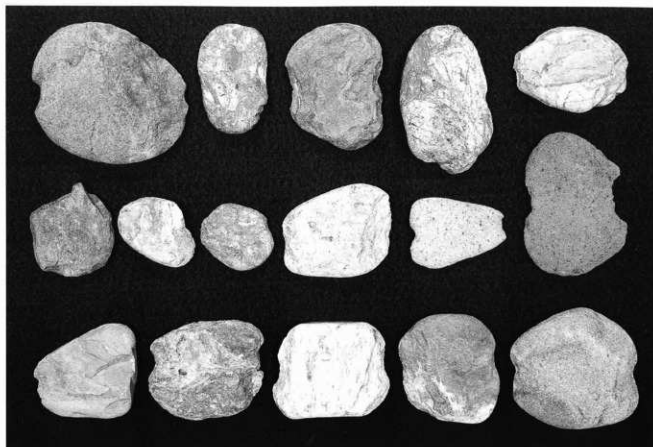
遺物包含層出土遺物 (29)



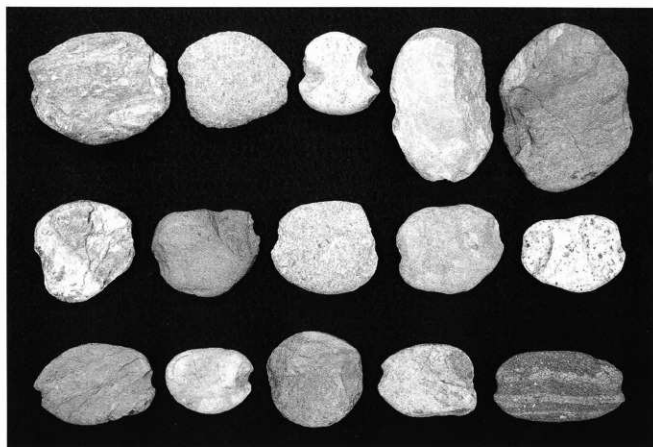
遺物包含層出土遺物 (30)



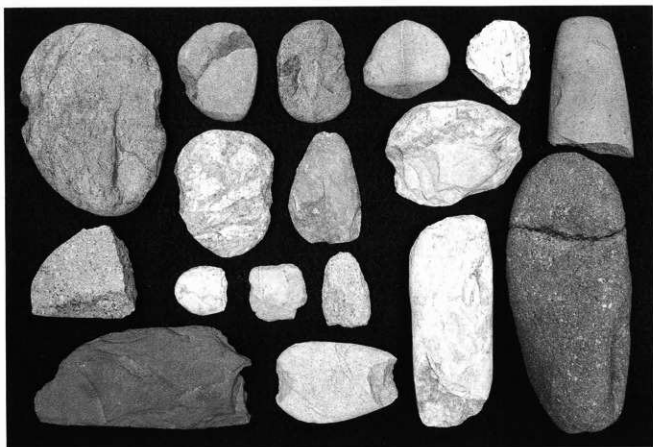
遺物包含層出土遺物 (31)



遺物包含層出土遺物 (32)



遺物包含層出土遺物 (33)



遺物包含層出土遺物 (34)



遺物包含層出土遺物 (35)

報 告 書 抄 録

ふりがな	こやまいせき							
書名	小山遺跡							
副書名	-介護福祉施設建設に伴う緊急発掘調査報告書-							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	神原 雄一郎, 今松 佑太							
編集機関	盛岡市遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 電話 019-635-6600 Fax 019-635-6605							
発行年月日	2018年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°' "	°' "		m ²	
小山遺跡 第41次調査	岩手県盛岡市東中野 町30-1	03201		39° 41' 43"	141° 10' 21"	平成28年 0829~ 1201	196m ²	介護福祉施設建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
小山遺跡	集落遺跡	縄文時代 前期	竪穴建物跡2棟	縄文時代早期から 中期にかけての土 器・石器・土製 品・石製品		検出されたRA002竪穴建物跡 は、5期にわたる拡張が確認さ れ、最終段階の床面には完形の深 鉢、台石と思われる大形礫や敲打 器が残されていた。		

小山遺跡

—介護福祉施設建設に伴う緊急発掘調査報告書—

2018年3月15日刊行

編集 盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1
TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605

印刷 河北印刷株式会社
〒020-0015 岩手県盛岡市本町通2-8-7
TEL 019-623-4256 FAX 019-623-0976